

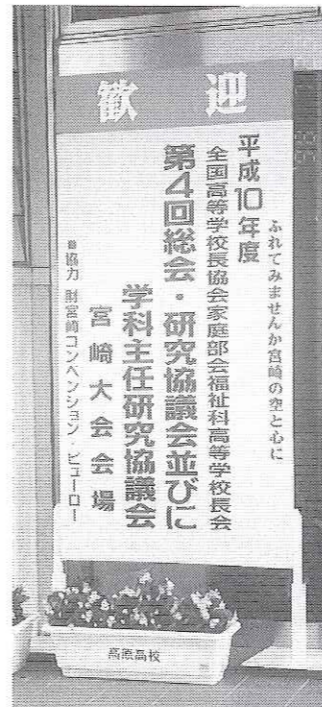
平成 10 年度 (1998)

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会  
第 4 回総会・研究協議会並びに学科主任研究協議会

## 宮崎大会報告

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会

# 宮崎大会開会式



来 賓



主 催 者



文部省 河野 公子先生



文部省 細江 容子先生



厚生省 喜田川典秀先生

# 講演会



講師  
薄井坦子先生



報告者  
埼玉県立不動岡誠和高等学校教諭  
佐藤恵子

# 全体報告会



全国高等学校長協会家庭部会  
事務局長 堀内八郎

# 校長部会



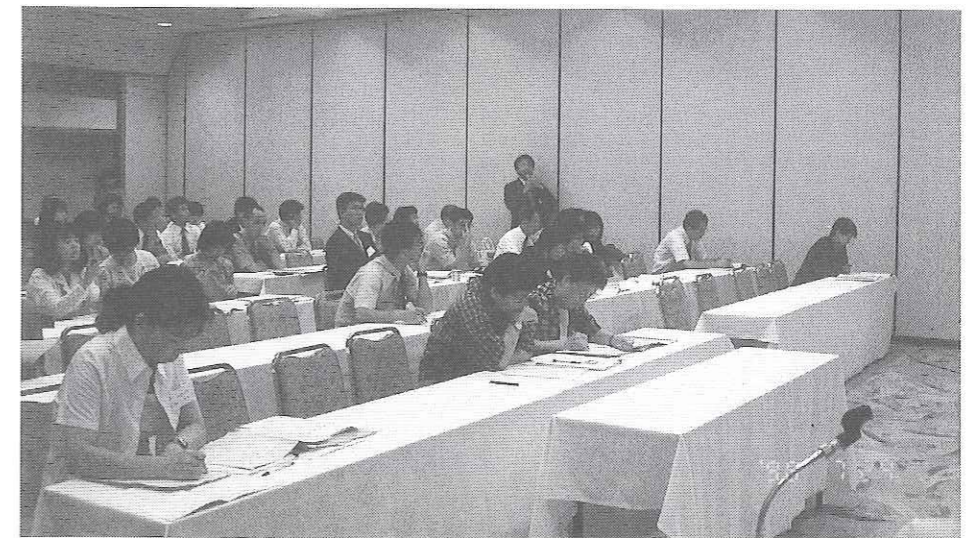
基調講演  
文部省 河野公子先生

# 主任部会

## 1. 学科設置校分科会



## 2. コース等設置校分科会



# 部会報告(閉会式)



北海道釧路星園高等学校長  
井川博己



函館大妻高等学校教諭  
池田延己

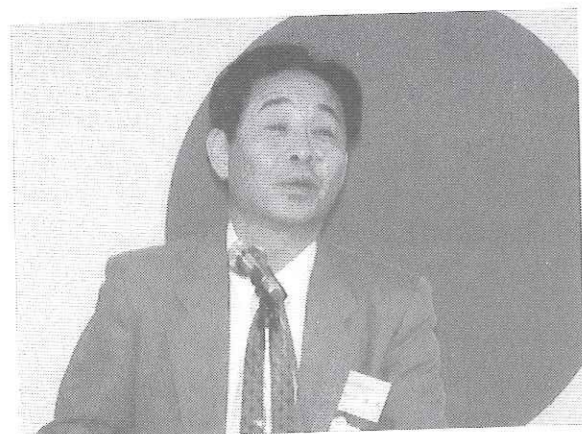
ベル学園高等学校教諭  
保住芳美



全国高等学校長協会家庭部会  
理事長 中川武司



全国福祉科高等学校長会  
会長 本橋恒雄



主管校 宮崎県立門川農業高等学校長  
岩村隆博



次回主管校 ベル学園高等学校長  
丸山哲朗

# 目次

平成10年度 宮崎大会の概要 ..... 2

来賓・主催者・主管校代表者 ..... 3

あいさつ「専門教科『福祉』の創設が見えた第4回総会」 .....  
     全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会長 本橋恒雄・4

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会役員 ..... 5

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会総会  
     並びに学科主任研究協議会会場地区一覧表 ..... 5

理事会 ..... 6

学科主任代表者会議 ..... 6

開会行事 ..... 7

講演会「ヒトから人間への育ちを支える」(看護教育に携わってきて) .....  
     宮崎県立看護大学学長 薄井坦子・8

全体報告会 ..... 12

校長部会・総会 ..... 14

校長部会・研究協議会(その1) ..... 15

平成9年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事業報告 ..... 17

平成10年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会事業計画 ..... 18

平成9年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会計決算書 ..... 19

平成10年度全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会計予算書 ..... 20

主任部会・研究協議会(その1) ..... 21

校長部会・研究協議会(その2) ..... 28

主任部会・研究協議会(その2) ..... 29

部会報告・指導講評・閉会行事 ..... 32

宮崎大会を終えて ..... 宮崎県立門川農業高等学校長 岩村隆博・35

主管校の学科主任として... 宮崎県立門川農業高等学校福祉生活科主任 三宅靖子・35

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会規約 ..... 36

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会学科主任代表者会 ..... 37

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会加盟校一覧 ..... 38

あとがき(諸連絡) ..... 45

# 平成10年度 宮崎大会の概要

- 1 研究主題 高等学校福祉教育の充実と発展をめざして  
— ひびく・ひらく高校福祉教育の出発 —
- 2 期 日 平成10年7月22日(水) <理事会・学科主任代表者会議>  
平成10年7月23日(木)・7月24日(金) <総会・研究協議会>
- 3 主催等 主催 全国高等学校長協会家庭部会  
全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会  
後援 宮崎県教育委員会  
宮崎市教育委員会  
宮崎県高等学校長協会家庭部会  
主管校 宮崎県立門川農業高等学校  
協力校 宮崎県立妻高等学校  
宮崎県立高原高等学校  
宮崎県立日南農林高等学校

4 会 場 ホテルプラザ宮崎(宮崎市川原町1-1) TEL(0985)27-1111

## 5 基本日程

第1日目(7月22日 水曜日)

15:00 15:30 17:00

受	理 事 会
付	学科主任代表者会議

第2日目(7月23日 木曜日)

9:00 9:30 10:15 12:00 13:00 14:00 15:00 17:00 18:00 20:00

受	開 会 行 事	講 演 会	昼 食	全体報告会	総会	研究協議会(校長)	休 憩	教 育 懇 談 会
付					研究協議会(主任)			

第3日目(7月24日 曜日)

9:00 10:00 11:30 12:00 13:00 15:30

研究協議会(校長)	部 会 報 告	閉 会	昼 食	教 育 視 察
研究協議会(主任)	指 導 講 評	行 事	(解散)	Aコース 宮崎県立看護大→空港・駅 Bコース シーガイア→空港・駅

6 参加校(者) 81校 (159名)

# 来賓・主催者・主管校代表者

## ① 来 賓

- 文 部 省 初 等 中 等 教 育 局 視 学 官 河 野 公 子
- 文 部 省 初 等 中 等 教 育 局 職 業 教 育 課 教 科 調 査 官 細 江 容 子
- 厚 生 省 社 会 ・ 援 護 局 施 設 人 材 課 喜 田 川 典 秀  
福 祉 人 材 確 保 対 策 室 長  
マ ン パ ウ ー 企 画 係 長 資 格 ・ 試 験 係 長
- 宮 崎 県 教 育 長 笹 山 竹 義
- 宮 崎 県 教 育 次 長 岩 切 正 憲
- 宮 崎 県 教 育 庁 学 校 教 育 課 長 川 口 靖 文
- 宮 崎 県 教 育 庁 学 校 教 育 課 指 導 主 事 武 田 敏 子
- 宮 崎 県 高 等 学 校 校 長 協 会 会 長 高 橋 政 志
- 宮 崎 県 高 等 学 校 校 長 協 会 家 庭 部 会 長 外 山 方 圀

## ② 主 催 者

- 全 国 高 等 学 校 校 長 協 会 家 庭 部 会 理 事 長 中 川 武 司
- 全 国 高 等 学 校 校 長 協 会 家 庭 部 会 本 橋 恒 雄  
福 祉 科 高 等 学 校 校 長 会 会 長
- 全 国 高 等 学 校 校 長 協 会 家 庭 部 会 事 務 局 長 堀 内 八 郎

## ③ 主 管 校 代 表 者

- 宮 崎 県 立 門 川 農 業 高 等 学 校 校 長 岩 村 隆 博

あいさつ

専門教科「福祉」の創設が見えた第4回総会

全国高等学校長協会家庭部会  
福祉科高等学校長会会長  
本橋 恒雄

北は北海道、南は沖縄まで全国各地から、このように多数の先生方にご参加をいただき、第4回総会・研究協議会・並びに学科主任研究協議会が、ここ宮崎市で盛大に開催されますことを大変有り難く、嬉しく存じる次第でございます。また、ご来賓として文部省初等中等教育局の視学官河野公子先生、教科調査官細江容子先生、厚生省社会・援護局の施設人材課喜田川典秀先生、そして宮崎県教育長の笹山竹義様をはじめ地元教育関係者諸先生方のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

21世紀の我が国の社会を展望すると、高齢社会という問題は、避けて通ることができない国民的課題であります。戦後、日本は経済成長とともに国民生活は向上し、衛生水準の向上や医学・医療技術の進歩もあいまって、平均寿命の著しい伸長をもたらした世界の最長寿国となりました。そして、平成27年(2015年)には、4人に1人が高齢者という超高齢社会に突入いたします。

今後、介護を要する高齢者がより増加すると、様々な問題が生じてまいります。高齢社会における福祉行政の抜本的見直し及び法的整備が急がれると同時に、今、まさに、この21世紀の高齢社会を担うべき子供たちへの教育はどうあるべきかが問われています。福祉教育の法的整備と教育内容、教育方法及び教育環境の整備等、福祉教育の充実、発展こそが急務となっております。

昨年、平成9年6月に中央教育審議会より「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」(第二次答申)がだされ、高齢社会に直面した教育の在り方が検討されました。これを受けて、今年6月には、学校週5日制を踏まえての教育課程審議会では、「教育課程の基準の改善について」(審議のまとめ)が公表されました。おそらく、今月中にも、答申が出されるものと思われます。また、理科教育及び産業審議会でも「今後の専門高校における教育の在り方について」の答申が、この宮崎大会開催中の明日にでも出されます。こ

れらの答申の中で注目すべきことは、我々が永い間待ち望んでいた専門教科「福祉」の創設でございます。これは、我々の悲願でございました。ここに至ることが出来たのは、高齢社会を迎える世の中の大きなうねりと福祉及び福祉教育に携わっている皆様の日ごろの努力と誠意の表れであろうと思います。

文部省では、この答申を受けて、さっそく「学習指導要領」の改定作業に着手すると思われます。いよいよ、法的根拠をもつ学習指導要領の中に、専門教科「福祉」が創設されると、今まで学校現場が抱えていた諸問題が一気に解決の方向に動き出すものと考えられます。例えば、教科書の問題、教員免許状、教員定数、教員採用等の問題、介護実習等の諸問題など徐々に法的整備がなされると思います。

このように、専門教科「福祉」の創設は、福祉教育にとって大きな希望の大改革でございます。今後の推移に期待し、先生方と一緒に注目して行きたいと思っております。一方、学校現場では、これを機会に問われるのが福祉教育の中味であります。より一層の授業内容の充実、指導方法の工夫改善等をしていただき、福祉スペシャリストの養成にご尽力いただきたいと存じます。私は、高等学校の福祉教育に携わる者として、皆様と共に明日の福祉教育を夢見ながら、専門教科「福祉」に大いに期待して止みません。

さて、この全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会に加入している学校は、現在、昨年の111校から更に増加して、133校(公立103校、私立30校)となりました。平成6年の創設当初66校だった加盟校も2倍となり、今後、加盟校は増加するものと思われ、大変喜ばしいことでございます。

今大会は、研究主題「高等学校福祉教育の充実と発展を目指して、ひびく・ひらく高校福祉教育の出発」ということで校長部会の研究協議会と併せて学科主任会での研究協議会も、それぞれ具体的な研究テーマをもって臨んでおります。どうか、充実した研究協議会となりますようお願い申し上げます。

最後に、大会開催にあたり、地元の主管校門川農業高校さんを始め協力校の先生方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

この宮崎大会が実り多い大会となることを祈念しまして、挨拶にかえさせていただきます。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会役員

役職	地区	氏名	学校名	都道府県名
会長		本橋 恒雄	埼玉県立不動岡誠和高等学校	埼玉県
理事	北海道	井川 博巳	北海道釧路星園高等学校	北海道
理事	東北	菅野 純孝	岩手県立一関第二高等学校	岩手県
理事	関東	本田 良夫	千葉県立松戸矢切高等学校	千葉県
理事	北信越	山田 邦男	石川県立田鶴浜高等学校	石川県
理事	東海	酒井 玲子	岐阜県立大垣桜高等学校	岐阜県
理事	近畿	村上 紘揚	兵庫県立新宮高等学校	兵庫県
理事	中国	丸山 哲朗	ベル学園高等学校	岡山県
理事	四国	西村 義臣	松山城南高等学校	愛媛県
理事	九州	岩村 隆博	宮崎県立門川農業高等学校	宮崎県
監事	関東	齊藤 二郎	茨城県立古河第二高等学校	茨城県
監事	関東	佐々木 重昭	神奈川県立高浜高等学校	神奈川県

全国高等学校長協会家庭部会

福祉科高等学校長会総会並びに学科主任研究協議会会場地区一覧表

ブロック 回・年度	北海道 東北	関東 北信越	東海 近畿	中国 四国	九州
1 平成7年			東海(静岡) 三島高		
2 平成8年	北海道 釧路星園高				
3 平成9年		北信越(福井) 大野東高			
4 平成10年					九州(宮崎) 門川農業高
5 平成11年				中国(岡山) ベル学園	
6 平成12年			近畿 ( )		
7 平成13年	東北 ( )				
8 平成14年		関東 ( )			
9 平成15年				四国 ( )	

## 理事会

平成10年7月22日(水)

15:30~17:50 ホテルプラザ宮崎  
会議室グランピア(13階)

### はじめに

南国の真夏の太陽が降り注ぐ宮崎市、町の中心を流れる大淀川の河畔にあるホテルプラザ宮崎の会議室グランピアにおいて、家庭部会代表3名、地区理事7名、監事1名、福祉部会代表1名、主管校1名、計13名の列席のもと、第四回宮崎大会に関わる運営の一切について協議が進められた。

### 会の状況

司会(丸山哲郎)。開会のことば(丸山哲郎)。あいさつ(中川武司、堀内八郎、岩村隆博、本橋恒雄)。

### 報告事項

- 1 平成10年・11年度役員について  
本橋会長の就任、監事に佐々木重昭先生(神奈川県立高浜高校)の就任、今年度より中国と四国を分離し、四国地区の理事に西村義臣先生(松山城南高校)の就任について報告。
- 2 平成10年度加盟校報告  
平成9年度111校。平成10年度133校。2校脱会。
- 3 平成10年度総会について主管校校長(岩村隆博)から報告。
- 4 公開授業「社会福祉制度」について  
11月9日 三島高等学校(静岡県)

### 協議事項

- 1 平成9年度事業報告・会計決算・監査報告。
- 2 平成10年度事業・予算計画。  
学科主任代表者会議の中で研究部、監査統計部、広報部の活動をするとして予算を計上。
- 3 要望書について  
「高等学校における福祉教育の充実と振興についての要望書」は、理産審等の答申など周りに控えているので様子を見る。

- 4 次期開催について  
中国地区丸山理事から主管校(岡山、ベル学園高等学校)、開催予定月日(平成11年10月20日、21日、22日)、教員による公開授業を21日午前中に学校で実施するとの予告があった。
- 5 平成12年開催について。  
近畿地区11校で8月20日に組織作りを行う。
- 6 平成11年度第一回理事会について。  
本橋会長より5月27日(木)1時30分の予定と報告される。
- 7 平成11年・12年度役員について  
本橋会長より来年は理事の改選時期、遅くとも3月末までに報告願いたい。又会長の相談役として来年度より副会長1名(会長が委嘱して理事が兼任)を置くとの提案があった。

## 学科主任代表者会議

平成10年7月22日(水)

15:30~17:50 ホテルプラザ宮崎  
会議室ピレーネ(13階)  
司会進行 池田 延己

### (三宅・門川農業)

- 1 第4回総会・宮崎大会要項の内容説明をする。学科設置校A、コース設置校Bとする。コース設置校57校である。  
(池田・函館大妻)  
2 質問用紙は去年通りで実施する。  
主任部会・研究協議で活用する。  
3 全国福祉科高等学校学科主任代表者組織分担・希望表(案)について検討する。(1)研修部〈授業(指導書)研究〉、(2)調査統計部〈全国基礎調査〉、(3)広報部〈各校の近況・福祉情報〉の組織とする。学科主任代表者名をパンフレットに明記した方がよい。資料のP21に学科主任代表者一覧表を入れる。学科主任代表者の任期は2年とし各ブロックから1名選出する。各ブロックで1年に1回集まる方向で検討をする。国家試験の合格は毎年統計を取る。アンケートを実施する場合は学科設置校、コース設置校に分けて取る。  
(保住・ベル学園)

4 公開授業は11月9日(月)三島高等学校で開催予定である。内容は社会福祉制度を実施。第5回は関東地方の予定である。

(池田・函館大妻)

5 10月31日、日本社会事業学校連盟の総会が開催される。福祉科の現状、実態を発表する。大学の特別推薦枠をもらいたい。10月28日、29日、日本福祉ボランティア学会が長崎で実施される。

### 6 確認事項

- ・関東地方の公開授業について大橋先生と連絡を取り合う。
- ・学科主任代表者の任期は平成11年5月末で、代わる場合にはブロック内で決めておく。
- ・学科主任会の全体を本年度は設けてないが来年はどうするか検討する。

## 開会行事

7月23日(木) 9:30~10:15

ロイヤルホール(別館2階)  
司会進行 荒川 功

- 1 開会のことば  
石川県立田鶴浜高等学校長 (山田 邦男)
- 2 主催者のあいさつ  
全国高等学校長協会家庭部会理事長

(中川 武司)

多数の来賓のご出席を賜り、また全国各地より多くの先生方の参加で本会が開催できることを、主催者として喜ばしく思う。

福祉の心をどのように育てるか、福祉の技術を持つ人をどのように増していくかを目的に設立され、これまで施設設備・指導体制・実習・進路・資格取得・コースのあり方等が検討され133校の加盟となった。今後、理産審の答申が発表され、さらに新しい課題が生ずると思われる。福祉学科の新しいスタートをきるためにも意義深い会にしたい。

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会会長  
(本橋 恒雄)

21世紀に向けて、福祉に関する教育環境や諸条件の法的整備及び福祉教育の充実発展が今日の課題である。

悲願であった教科「福祉」が創設され、法的根拠ができれば、いままで学校現場でかかっていた諸問題がいきなり良い方向へ向うと推測できる。教科「福祉」の創設は福祉教育にとって希望の一大改革である。注目していきたい。

今後は教育実践の充実が問われることになる。本大会を充実した会にしていきたい。

### 3 来賓祝辞

文部省初等中等教育局視学官(河野 公子)  
教科「福祉」を学習指導要領に位置づけることになった。先生方の日頃の福祉教育への熱心な実践へ心から敬意を表したい。

これからの職業教育と裾野を広げるという意味での国民的教養としての福祉教育、それぞれの立場での教育を真に充実していかなければならない大事な時期である。

内容としては、昭和62年の報告書に基づいて現在実施している内容を時代の進展にともなって改善している。また介護福祉士受験に応じた内容として検討している。現在の実践をさらに深めていけば混乱はないものと思われる。

それぞれの学校での実践をいかに充実していくかがこの大会の課題である。この大会での協議をもとに、全国のネットワークを一層緊密に図っていただきたい。

皆で連絡をとりあって福祉科を育てていけたら素晴らしい今後がひらけると期待している。

文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官  
(細江 容子)

近年、国際化、情報化、少子高齢化により社会が大きく変化している。それに伴って就業構造や職業生活において必要な専門能力の高度化がさらに進んでいる。価値観においても、心の豊かさの重視、多様性、選択の自由の拡大など変化している。この様な中で、自らが考え、判断し、行動ができる資質や能力、高度に専門的な知識や技術をもった人材がこれまで以上に必要とされている。

福祉科は実習等により、体験的実践的学習を通して現実からさまざまなことを学ぶことができ非常に重要な学科である。それをささえているのは、福祉教育に責任をもって取り組んでいる先生方あってのことと思う。大会が盛り多いものであるよう期待している。

厚生省社会・援護局施設人材課 福祉人材確保対策室 マンパワー企画係長 資格・試験係長 (喜田川 典秀)

社会福祉の人材確保が進められ、福祉分野も仕事の領域として確立されてきた。今後も必要と予測している。福祉教育を受けた人が増えることは喜ばしいことである。社会福祉基礎構造改革が進められ、カリキュラムを検討している。

宮崎県教育庁学校教育課長 (川口 靖文)  
教科「福祉」の創設は、福祉科の教育内容や指導者の育成に方向性が示されることになった。このことは、先生方と本会の真剣な取り組みの賜だと思う。この会がますます充実発展していくことを祈念している。

- 4 来賓紹介  
宮崎県立高原高等学校長 (前田 勝)
- 5 主管校あいさつ  
宮崎県立門川農業高等学校長 (岩村 隆博)
- 6 閉会のことば  
岩手県立一関第二高等学校長 (菅野 純孝)

## 講演会

### 「ヒトから人間への育ちを支える」

講師：宮崎県立看護大学学長 薄井坦子氏  
7月23日(休) 10:25~12:00  
ロイヤルホール(別館2階)

講師紹介 本橋 恒雄(会長)  
講師プロフィール

1932年：広島市に生まれる  
1961年：日本医師会勤務  
1965年：東京女子医科大学にて看護実践・教育・研究に当たる  
1972年：東京女子医科大学看護短期大学教授  
1977年：千葉大学看護学部教授  
1997年：宮崎県立看護大学長、千葉大学名誉教授  
・専門領域「看護学」

昨年の4月から、宮崎県立看護大学で教鞭を執っている。自然が美しく、花いっぱい宮崎をこれを機にぜひご覧いただきたい。

22年間、千葉大学看護学部でいた。全国から多数の学生が、看護婦を目指してやってくるのだがナースの条件は、まず目の前の人間を見て、自分の心がどう動くかである。頭が良いというだけでは絶対に駄目で、体が動かないと看護にならない。これは、看護の鉄則である。人を見て、放っておけない心を持つという反射的に動くことのできる学生を育てたい。

そのために、例えばどういうことを行っているかということを紹介したい。

学生のレポートを作成するにあたり、演劇を見せて、表現をさせる。人間が何かをするということは、まず自分の心が動かないといけない。「心が動く」ということはどういうことなのか。いくつかの事例を挙げて説明したい。

#### 〔ナイチンゲールからの学び〕

##### (事例1)

宿舎の前に捨ててあった2匹の猫(推定1か月)を持ち帰った。育てていく中で、循環・体温・呼吸の3つが揃わないと人体のケアは出来ないことを実感した。また、排泄物を見ることは、生命の状態を見るために非常に大切である。

人間が、動物を飼うというのはエゴである。動物は自由に生きたいのだ。しかし、うまく共存していくためには、互いの環境づくりを十分にやっていくべきである。

頭の中に像を描く。看護は、自分の目の前の人の何を見ていけばいいのかを常に念頭に置いて行わなければならない。

##### (事例2)

祖父と2人暮らしの知人の子どもは、祖父の好みや動作、言葉が完全にインプットされていた。例えば、ひざや背中を曲げて動く、「どっこいしょ」と言うなど。これは、この子どもが祖父という像を通して「こうなりたい」「目指したい」と無意識に思っているからである。習慣化したものは、本人には全く見えない。さらに、学生の中には、表情が乏しい者が多い。表情を出すことイコール目立つことというイメージを小・中・高の中で習慣的に植えつけられているのではないか。

##### (事例3)

親が何を求めているのかを常に察知する学生がいる。親の要求や期待に応えようと無意識な行動に出る。

しかし、自分の能力を働かせる可能性を持たせる教育をしていくべきである。押しつけは絶対に駄目。周りの人の期待に応えることが早くから出来る人は、案外早く崩れる傾向にある。

##### (事例4)

学生のレポートに自分の生活時間を記録させて提出させる。これは、自分というものにきちんと向き合い、自分がどのようにして作られ、考え、生活しているかを克明に見ることの練習である。24時間は、すべての人間に共通して与えられている時間である。この記録をラフにしか書けない人はラフにしか人に対してケアできないと考える。ナースというのは、24時間気を抜くことが出来ない。

##### (事例5)

ナイチンゲールは、プロフェッション(自分の知性や感性すべてでケアすること)イコールコーディング(天職)と呼んだ。これは、放っておけない感情である。学生には、フィールド体験学習をさせて、目で見て手を出すべきか、出さないべきかを考えさせる練習を行っている。そして、その人に対して、本当にそのケアが必要なかが理解できる。

##### (事例6)

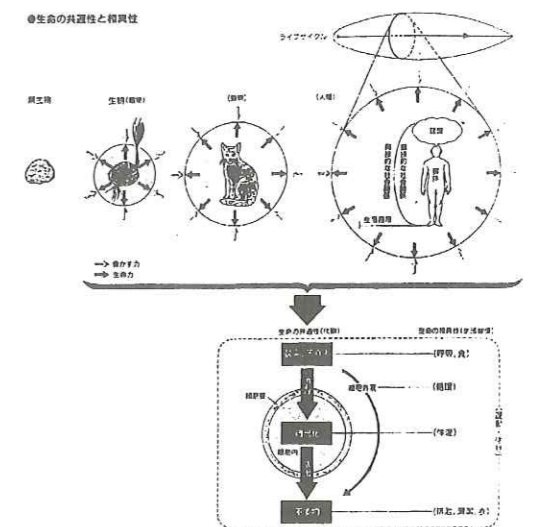
今の子どもは、他人のことで自分のことを重ね合わせて考えていない。だが、人間には、この能力が、備わっている。「私は、こんなにこの人の身体のこと、考えていることすべて知っている」

と自信を持って言えるぐらい相手のことを勉強しなければならない。それによって、良いナースになっていくのだ。

また、ある人工膀胱をつけた患者の一例を挙げる。この患者は、常々死ぬことだけを考えていて、何に対しても無気力で、ふてくされている。そして、周りの看護婦らにも当たり散らしている。傲慢な患者だと思いつつも、根気強く語りかけケアしていくうちに、やっと心を開いてくれるようになった。学生にいつも言い聞かせているのが、この患者のように、どんなに激しい言葉を発しても、「人の目の光には、その人の人間性が表れる」ということだ。そして、人間は、頭の中に「目標」があると、心を定めて生きていけるものである。先の患者は、退院する時に「ゆずの季節になってゆずそばが出来たら、真っ先に先生の所へ行っていきます。」と温かい笑顔を残していった。目標を持たせるような、働きかけ、心の尽くし方がとても大切であるとつくづく感じた。そこから、自分と他人とのよりよい関係も強調されていくのだ。

#### 〔ポルトマンからの学び〕

- (1)人間の生命力は、地球上で育まれた力である。
  - (2)人間は、環境をつくり変えることが出来る。
- すべての生物は、①摂取 → ②自己化 → ③排出のプロセスがあれば、生きることが出来る。そして人間の場合は、直接・間接の社会関係の中で形成された個々の認識によって生活するから、生活習慣のすべてが人間の生命力にかかわってくる。その9つの基本が、「呼吸」「食」「環境」「体温」「運動」「休息」「排泄」「清潔」「衣」である。







## 全体報告会

7月23日(木) 13:00~14:00

ロイヤルホール(2階)

司会進行 小西 国雄

### 1 理事会からの報告

全国高等学校長協会家庭部会

福祉科高等学校長会会長 本橋 恒雄

#### 報告事項

(1) 平成10年度役員の確認(大会要項P21参照)

(2) 平成10年度加盟校報告

加盟校は昨年111校から今年133校に増加

(3) 公開授業について

平成10年11月9日(月) 静岡県三島高等学校

「社会福祉制度」

指導者: 日本社会事業大学 大橋先生

#### 協議事項

(1) 平成9年度会計・監査報告、事業報告

(2) 平成10年度予算審議、事業計画について

(3) 要望書…中身を精選し、時期を考慮して提出

(4) 次期開催について

平成11年10月20日~22日

中国・四国地区 岡山県ベル学園高等学校

(5) 平成12年度開催 近畿地区 開催校を検討中

(6) 平成11年度第1回理事会について

平成11年5月27日(木) 午後の予定

(7) 平成11・12年度役員改選について

・今年度末(3月)までに各地区で理事を選出し、事務局へ報告

・来年度から副会長を選出予定

### 2 全国高等学校長協会家庭部会からの報告

全国高等学校長協会家庭部会

事務局長 堀内 八郎

(1) 全国高等学校長協会家庭部会の現状について

・平成10年加盟校 2728校(昨年より45校

増)

・平成13年(2001年)に創立50周年を迎える

・全国で16の高等学校長協会部会があり、普通科について多い

・家庭に関する学科の設置校が少なく、10年前に比べて大幅に減少

(2) 保育技術検定について(資料:3校説明)

資料1 保育技術検定の概要

・主催については、校長会が母体となる

資料2 保育技術検定の概要

資料3 保育検定における学習の効果について

作成: 埼玉県立不動岡誠和高校 生命教諭

・普通科でも3級まで受験可能で合格している

・平成9年度から4級を新しく作った。

・今年で6年目であり、比較的新しい

・種目別では昨年より、1種目でも受験を出来るようにした。

平成9年度全種目受験者 3600名位

平成9年度種目別受験者 2800名位

・様々な効果があるので、奨励してほしい。

問い合わせ先 東京の本部事務局

Tel (03) 3261-0617 担当: 柏沼

### 3 福祉科事務局からの報告

埼玉県立不動岡誠和高等学校

教諭 佐藤 恵子

今年度 理産審の答申真ただ中の開催で、期待の大きいところである。

今「福祉の大きな風」が起きている。

そして 語ろう未来を。

現在、加盟校は133校である。今年24校が新規加入し、内4校が職業学科で普通科、総合学科の加入が増えてきている。福祉系高校の多様なニーズに対応していかなければならない。

昨年、高校生が学ぶ教科書(準教科書)が6巻まで刊行されている。来年、2月までに残りの3巻が出来る予定である。

今年も昨年同様、公開授業を計画している。

アンケートを基にした資料を作成したので参考にし、近隣の学校と情報交換をしてもらいたい。

学科主任代表者会の組織を、研究部・調査統計部・広報部と大きく3つに分け、校長会の傘下におくことを考えている。

協議テーマについては、次の大会へつなぎたい。

### 4 社会福祉基礎構造改革について

厚生省社会・援護局施設人材課

福祉人材確保対策室

マンパワー企画係長 資格・試験係長

喜田川 典秀

資料: 社会福祉基礎構造改革について(中間まとめ)〔冊子〕

「社会福祉基礎構造改革について(中間まとめ)」の要点〔プリント3枚〕

#### I 改革の必要性

戦前、社会防衛として限定的に慈善を行っていた。戦後、GHQの指令の元、経済的弱者、身体障害者、孤児などの方への支援をし、施設に入所することで始まった。現在も、措置(行政処分)という事で、施設の入所・在宅福祉の適用が行われている。通常サービスを受ける場合、受ける側と提供する側が契約をする。しかし、社会福祉の場合、社会福祉事務所、市町村が間に入るため、直接的に結びついた仕組みにはなっていない。

現在、介護保険が導入されると、契約的な関係に切り変わるので、社会福祉全体も変わらなければならない。この発端は、福祉が国民一般的なサービスに切り変わったという背景がある。

#### II 改革の理念

改革の基本的方向を7つ挙げている。

自らの生活を自らの責任で営むことが基本で、自立した生活を維持できない場合に社会連帯や制度でカバーする。最終的には、各個人が人として尊厳をもって、家庭や地域の中でその人らしい自立した生活を送れるよう支援する。

#### III 改革の具体的内容

#### 1 社会福祉事業の推進

「◎」のところが重要なポイントである。(◎は配布プリント内)

「社会福祉事業」の権利擁護の部分は、現在、法務省で成年後見制度が検討されており、自分で決定できない障害者の方などが判断できるように支援をしたり、替わってすることを社会福祉事業の中に、今回含めていきたい。

「サービスの利用」では、行政処分としての措置制度はやめるが、公的助成は行っていく。

#### 2 質と効率性の確保

「人材養成・確保」良い人材を得るために社会的評価を裏うちするような賃金体系を整備する。今年中に人事院から社会福祉従事者の公給表を作成する予定である。

利用者によるサービスの選択のための情報として、職員の資格などを開示させる必要がある。自ずと、資格を持った人が必要となり、資格を取ることが必要となってくる。

幅広い分野から優秀な人材をとということでは、平成22年に、約195万人の人が社会福祉に従事し、介護に関してはホームヘルパー58万人、特別養護老人ホーム・老人保健施設での職員は36万人が必要となってくる。これらを福祉系高校卒や専門学校卒では現実的に難しいので、通信や夜間課程を構想し、他の分野の人が可能になるようにしたい。

権利擁護の中身について強調されているのは、知識だけでなく専門職としての心構えが必要であり、実習教育などの臨床教育の場において充実する必要がある。

保健・医療の連携がとれる人材養成が必要で、介護支援サービス(ケアマネジメント)など新しい分野が入ってくるので、教育課程を見直す必要がある。実習においては、介護福祉士の場合、施設中心で行っているため、在宅における実習を強化する必要がある。社会福祉士の場合は、1市町村に実習生を送り込み、その町・地域の福祉の全体の計画ができるような実習にしていきたい。計画的に福祉を進めなければならない現状にきているので行政ニーズに対応し、行政に提言、協力していく形になるとよいのではないかと。介護福祉士養成施設(専門学校以上)の教員の資質が問われているので研修にももう少し力を入れていく必要がある。

ある。卒業教育として、国家資格を取得した後、技術を技能に変えていく必要がある。又、社会情勢も変わるので研修をしなければならない。各県の介護福祉士会があるが、これを全国的に組織化し、法人資格を取らされるという動きがある。

今年度、専門職養成のカリキュラムの見直しがあり、平成12年度より実施する予定である。

全体の基礎構造改革の法案も、今度の通常国会で提出し、来年2・3月の国会で審議予定である。

このような時期なので専門職の専門性が求められる職場環境になり、働いている人の責任が重くなっていく。

## 校長部会・総会

7月23日(木) 14:10~15:00  
芙蓉の間(別館3階)

### 〔総会〕

司会進行 本田 良夫

#### 1 開会のことば

丸山 哲朗

#### 2 会長挨拶

本橋 恒雄

本日は、総会に46名の参加があり、創設時代の13名からすると、年々参加者が増加しており、大変ありがたい。

理産審の答申が本日出され、いよいよ教科「福祉」が新しく打ち出された。今後、学習指導要領の位置づけ、教育内容の充実、法的根拠による様々な諸問題が一挙に解決するのではないかと推察する。

この会の限られた時間の中で、先生方の忌憚らない積極的な御意見を出していただきたい。

#### 3 議長選出(本橋会長を議長とする提案が承認される。)

#### 4 議事

##### 〈報告事項〉

- (1) 平成9年度事業報告(事務局 佐藤恵子)
- (2) 平成9年度決算報告(事務局 佐藤恵子)
- (3) 平成9年度監査報告(齊藤 二郎)

監査の結果、適正に処理されていることの報告があり承認された。

##### 〈協議事項〉

#### (1) 平成10年度事業報告

#### (2) 平成10年度予算案

① 年会費5000円×133校で予算化した。

② 今年度から事業費の中に調査研究補助費という項目を設けた。

(事業計画、予算が承認される。)

#### (3) 平成9年・10年度役員選出、役員紹介(承認される)

#### (4) 要望書の検討・協議

① 文部省、厚生省に要望書を提出するので、4つの柱にまとめたが、教課審・理産審の中に盛り込まれている内容もあるので、さらに吟味し、焦点化したい。(酒井玲子)

② 要望書(1)、(2)、(4)については検討する。  
(3)については、校長会の組織の名において文章にまとめ、文部省職業教育課長に会長と家庭部会理事長が提出してほしい。

・大至急提出する要望と、じっくり考えて提出する要望に分けてほしい。

(文部省河野公子先生)

・校長会総会の総意要望書の提出を承認されたと認めさせてもらう。

#### 5 その他

① 福祉科高等学校長会役員の関東ブロック監事が、神奈川県立綾瀬西高等学校長の勝田文隆先生から、神奈川県立高浜高等学校長の佐々木重昭先生に変更になった。

② 四国地区の設置校が8校に増加したことに伴い、中国・四国ブロックから四国ブロックを独立させた。理事については、松山城南高等学校長の西村義臣先生が承認された。

③ 井上輝之前会長の辞任の際、副会長を設けてほしいという要望があった。昨日の理事会で、これまでの会長1人、各ブロック理事に加え、副会長を1人設けたらどうかという提案があった。副会長は、理事を兼ねることができ、会長の相談役になる。

(承認された)

これに伴う内規の変更として、第6条の1、会長1名の次に副会長1名を追加する。

また、第8条の4として、副会長は会長が委嘱し、理事を兼ねることができるという項目を追加する。

#### 6 閉会のことば

村山 紘揚

## 校長部会・研究協議会(その1)

校長部会「基調講演」

## 「理科教育及び産業教育審議会 答申と福祉科教育について」

7月23日(木)

「芙蓉の間」

講師 文部省初等中等教育局視学官

河野 公子

司会進行 井川 博巳

村上 紘揚

### はじめに

今日は理科教育及び産業教育審議会の答申が、各先生方の手元に届いていると思うので、それをご覧いただきながら、その内容また福祉科教育についてお話ししていきたい。

### 1 教育改革プログラムのポイント

#### (1)心の教育を充実する

家庭教育の在り方について、文部省がこれほどまでにいろいろなことを言ったことはなかった。それほど現在、学校教育以前の問題が生じてきているといえる。それは、学校教育の中で、人間を育てるということが、一人一人の人間にとって非常に責任のあることなのだという教育をしてこなかったことが、結果として、現在こういう問題(子どもの問題行動等)を起こしてきていると考える。

(2)個性をのび多様な選択ができる学校制度を実現する。

公立においても、中高一貫教育制度ができるように法改正された。システム上の問題があり、実現が難しい感じもするが、子どもの数が非常に少なくなる中で実践になるので、いろいろな学校

制度を変えていこうという潮流としては、効果があるのではないかと思う。

(3)現場の自主性を尊重した学校づくりを促進する。

文部省は、学習指導要領や教科書など、学校教育の基本的事項を決定、指導はするが、具体的なものは学校や教育委員会において決定するようにしていただきたい。

(4)大学改革と研究振興をすすめる。

### 2 中央教育審議会の答申

### 3 教育課題審議会 審議のまとめのポイント

小、中学校については2002年から、高等学校については2003年から、新学習指導要領実施ということで、教育課程審議会の答申が公表される。

(1)教育課程の基準の改善と基本的視点

(2)教育内容の改善

完全学校週5日制ということが、たいへん大きなポイントであるが、授業時数をこえて、内容を削減することによって、じっくり考えさせながら学習に取り組ませる。そして基礎・基本をきちんと定着させるということが、今回の教課審で検討されたことである。また、今回「総合的な学習の時間」が、高等学校においては3~6単位ということで設定された。

(3)各学校段階ごとの役割の徹底

(4)授業時数の枠組み

高等学校における教科・科目及び単位数においては、各学校が適切に判断をいただいて、各学校で特色ある教育課程を編成していただくことになる。家庭科は、家庭基礎2単位、家庭総合4単位、生活技術4単位の中から、1科目履修ということになる。

### 4 理科教育及び産業教育審議会答申のポイント

理産審については、平成9年5月13日に諮問をいたしまして、平成9年10月1日に中間まとめ、そして今日答申ということで、非常に短期間に検討がなされた。

(1)専門高校の現状と課題

これまでの普通科志向が今後もずっと続くのかということ考えたとき、現在の企業の動き、産

平成9年度 全国高等学校長協会家庭部会 事業報告  
福祉科高等学校長会

業界の動向などをみると、潮流が変わってきていることに気付く。今後は、やはり何が出来るかということが大切になってくる。今までの問題点は卒業後、上につながる道が閉ざされていたということである。今は生涯学習社会であるから、高校で専門的な学習をして大学に行くということも、これからは大いにあるし、企業に入ってからまた大学に戻って学習をするという時代もきているので、そういう意味では、専門高校がこれから真価を發揮するのだと、関係者一同自信をもってやっていきたいと思う。

(2)専門高校における教育の改善・充実のための視点

(3)専門高校における教育の改善・充実の具体的方策

新教科「福祉」は、あくまでも専門教育としての福祉ということで押さえた。介護福祉士、ホームヘルパーといった福祉人材を養成するということが押さえている。従って、内容としては、昭和62年の理産審の調査研究報告会議の報告書に示されたものに基いて、少し内容の改善を図ったものである。7科目で構成しているが、現在の「老人介護」という科目を「高齢者・障害者介護」という科目に改め、設けた。

(4)地域や産業界とのパートナーシップの確立

生徒の在学中における就業体験(インターンシップ)の推進ということで、ここで問題になるのが社会福祉実習である。実習施設をどう確保するか、実習謝金を払っているという点、また安全のための保険をどうするかといった等の問題がいろいろあり、国としては、各学校がこれらをより良い形で実施できるよう支援するという方向で、現在課題として検討させていただいている。また、現在非常に問題になっているのが、社会福祉施設での実習の競合である。この問題も、どのような形で支援するかということを検討しているが、他にあらたな課題がある場合は、ご連絡いただきたい。

(5)関連して改善が望まれる事項

5 福祉科の教育の充実を目指して

「福祉」という教科が創設されると、学習指導要領の中に位置づく。ということは、国が何らかの形で教科書を示すということになる。現在もい

ろいろなテキストが出されているので、いくつかの会社から検定教科書が出していただけるのではないかと期待している。次に教員免許についての問題がでてくる。これから教科「福祉」という教員免許がでてくると、現在教えていただいている先生方が自動的に「福祉」が指導できるとは限らない状況になり、そういう痛みの部分が出てくることをお含みいただきたい。ただ、認定講習や認定試験といった、何らかの方法で救うということは考えていきたいし、現在、教職員課と検討している状況である。

おわりに

これから実際に具体化していく中で、いろいろな課題が細胞分裂のようにでてくるが、これだけの学科数ができてきたということは、制度として国がきちんとする必要があるということであるから、実際の学校での課題を教えていただきながら制度を整えていきたいと思っている。

期 日	活 動 内 容	備 考
5月22日(木) 10:00~12:00	福井大会に向けて その他	第1回 学科主任代表者会議 (家庭部会事務局会議室)
5月22日(木) 13:30~16:30	・役員の選出について ・要望書の作成について ・福井大会に向けて ・平成10年度開催地区について (九州地区)	第1回 理事会 (家庭部会事務局会議室)
7月8日(火)	「社会福祉基礎」 第1回 公開授業 指導 大橋 謙策 先生	函館大妻高等学校(北海道) 参加者 50名
7月14日(月)	文部省訪問	理事長・家庭部会事務局長・会長 平成10年度開催地区決定 主管校 宮崎県立門川農業高等学校
9月2日(火)	第2回 公開授業	一関第二高等学校(岩手県) 参加者 60名
10月7日(火) 10月9日(木)	総会(福井大会)の開催 }	主管校 大野東高等学校 7日 第2回 理事会 " 学科主任代表者会議 8日 総会・講演・研究協議会 講師:大橋謙策先生 9日 研究協議会 会場:勝山ニューホテル 参加者 115名
11月	文部省・厚生省訪問	要望書の提出 (会長 他)
11月11日(火)	第3回 公開授業	ベル学園高等学校(岡山県) 参加者 78名
2月26日(木)	福井大会の報告書刊行	A4、40P、300部 (うち、写真4P)

上記のとおり報告します。

平成10年7月22日

会長 本橋 恒雄

平成10年度 全国高等学校長協会家庭部会 事業計画  
福祉科高等学校長会

平成9年度  
全国高等学校長協会家庭部会  
福祉科高等学校長会会計決算報告

収入決算額 767,668円  
支出決算額 623,491円  
差引残高 144,177円

期 日	活 動 内 容	備 考
5月28日(木) 10:00~12:00	宮崎大会に向けて (学科主任代表者会組織について)	第1回 学科主任代表者会議 研究部・調査統計部・広報部 (家庭部会事務局会議室)
5月28日(木) 13:30~16:30	・役員を選出について ・要望書の作成について ・宮崎大会に向けて ・平成11年度開催地区について (中国・四国地区)	第1回 理事会 (家庭部会事務局会議室)
7月22日(木) 15:30~17:30	宮崎大会 第1日 第2回 理事会 「議 題」 第2回 学科主任代表者会議	宮崎大会会場 (ホテルプラザ宮崎)
7月23日(木)	宮崎大会 第2日 (総会・講演・研究協議会等)	講師 宮崎県立看護大学学長 薄井 坦子 先生
7月24日(金)	宮崎大会 第3日 (研究協議会・閉会行事等)	
11月9日(月)	「社会福祉制度」 第1回 公開授業 指導 大橋 謙策 先生	三島高等学校(静岡県)
1月中旬	宮崎大会報告書の刊行	A4、300部、40P (うち、写真4P)

上記のとおり提案します。  
平成10年7月22日

会長 本橋 恒雄

1 収入の部(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	比較増減(△)額	摘 要
会 費	555,000	555,000	0	年会費 5,000円×111校
繰越金	98,872	98,872	0	
雑収入	30,000	113,796	83,796	預金利子(¥406)・主管校より(¥100,000)・報告書等(¥13,390)
合 計	683,872	767,668	83,796	

2 支出の部(単位:円)

科 目	予 算 額	支 出 額	残 金	摘 要
総務費	225,100	237,020	△ 11,920	
会議費	40,000	20,000	20,000	理事会 年2回(5月分は10年度に繰り越し)
印刷費	10,000	10,000	0	事務局校印刷費
旅 費	75,100	75,100	0	事務局一人分総会派遣費
通信費	100,000	131,920	△ 31,920	案内、報告書等郵送
事業費	395,000	386,471	8,529	
報告書 印刷費	350,000	328,500	21,500	A4版 300部
総 会 補助費	20,000	20,000	0	
雑 費	25,000	37,971	△ 12,971	封筒印刷、写真
予備費	63,772	0	63,772	
予備費	63,772	0	63,772	
合 計	683,872	623,491	60,381	

上記の通り、報告いたします。  
平成10年7月22日

全国高等学校長協会家庭部会  
福祉科高等学校長会会長

井 上 輝 之

監査の結果、適正に処理され相違ないことを認めます。  
平成10年5月28日

福祉科高等学校長会 監事  
(茨城県立古河第二高校)  
福祉科高等学校長会 監事  
(神奈川県立藤沢西高校)

齊 藤 二 朗  
勝 田 文 隆

平成10年度  
全国高等学校長協会家庭部会  
福祉科高等学校長会会計予算書

1 収入の部(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	比較増減(△)額	摘要
会費	665,000	555,000	110,000	年会費 5,000円×133校
繰越金	144,177	98,872	45,305	
雑収入	30,000	30,000	0	
合計	839,177	683,872	155,305	

2 支出の部(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	比較増減(△)額	摘要
総務費	313,415	225,100	88,315	
会議費	50,000	40,000	10,000	
印刷費	10,000	10,000	0	事務局校印刷費
旅費	103,415	75,100	28,315	事務局一人分総会派遣費
通信費	150,000	100,000	50,000	
事業費	480,000	395,000	85,000	
報告書印刷費	400,000	350,000	50,000	
総会補助費	20,000	20,000	0	
調査研究補助費	30,000	0	30,000	
雑費	30,000	25,000	5,000	封筒印刷・写真
予備費	45,762	63,772	△ 18,010	
予備費	45,762	63,772	△ 18,010	
合計	839,177	683,872	155,305	

上記の通り、提案いたします。

平成10年7月23日

全国高等学校長協会家庭部会  
福祉科高等学校長会 会長

本橋恒雄

主任部会・研究協議会(その1)

7月23日(木) 14:10~17:00

〔学科設置校分科会〕

芙蓉の間(別館3階)

司会進行 池田 延己  
松本 寿子

一 本校の社会福祉実習

栃木県立真岡北陵高等学校教諭 川俣 崇子

本校は教養福祉科ができて4年目、まだ福祉科においては新米の部類に属するのではないかと思うが、今年のテーマが「語ろう未来を」ということで、私の話を種にしてみなさんの情報交換の場にさせていただければありがたい。

1 学校概要

①「教養福祉科の誕生」

創立90周年である農業高校、平成7年に学科改編が行われ、職業高校の中で総合選択制をとる学校ということで3つの学科(農業系の学科、商業系の学科、家庭系の学科)が生まれ4年目、そのうちの家庭系の学科に「教養福祉科」が属している。

2 社会福祉実習(教科)の目的と授業内容

①「施設実習・在宅実習を含めた授業の持ち方」

総合選択制ということで他学科(農業系の学科、商業系の学科)の生徒も福祉の勉強を受けられるという体制を取っている。しかし、集中実習が1週間しか取れないという問題点が出てきている。夏休み直前・夏休み直後(授業に集中できないとき)、集中実習を行っている。学校で学んだことを生かし、施設実習の中で応用して自分のものとしていくという、一番開花させる部分に力が入れないのが残念なところである。

3 社会福祉実習施設と実習計画及び委託料について

①「施設実習・在宅福祉実習施設一覧」

実習施設は、「施設実習」の方が12ヶ所、そして、「在宅実習」の方が17ヶ所である。

「施設実習」においては、真岡市に属する本校であるが、市内に特別養護老人ホームが1ヶ所しかないということもあり、近隣の施設に協力を依頼しているという状況、「在宅実習」においては、ホームヘルパーの実習・訪問看護実習・在宅介護支援センター実習と、とにかく利用できる施設をかき集めて協力を依頼しているという状況である。実習計画は第一段階と第二段階の2つのレベルに分かれて実習を行っている。2学年で第二段階の初期の所までやってしまい、3学年で第二段階のまとめをするという形である。段階の分け方、学年の分け方がはっきりしていない部分があり、実習目標に合わせてという所から、このようなアンバランスな面が出ているといえる。「一日実習」が7日間、飛び飛びで1週間ごとに曜日をとって行う。集中実習は実習日を連続にして行き、「在宅実習」においては今年は春休み、5月連休、夏休み1日実習をさせている。

②実習指導費について

実習の委託料は県費から1人1日1500円支払われている。実習の日報は段階に分けて作られている。在宅介護実習日報は今年作成中である。

③施設実習・在宅実習連絡協議会の開催

第1回目の実習の年は、実習前と実習後に協議会を開催し、本校の実情と実習内容について理解を深め、次年度への計画ということで実施したのであるが、2年度目から毎年1回実習の反省を含めた協議会を2月に設けている。その場には施設長や指導員に来てもらい、よりよい実習に向けての計画を行っている。

④保険加入について

1つは「ボランティア保険(全国社会福祉協議会主催)」に真岡市の社協の全額負担(1人500円)で入っている。ボランティアの推進のために入れてもらい、各ボランティア活動にこの保険を使わせている。そして、「施設実習保険」においては県費(年間14,000円)で支払っ

てもらっている。(株)コンパスに加入。「在宅福祉実習保険」では、国内旅行総合保険に1人1日500円で加入。保護者には説明し承諾の上加入してもらっている。

#### 4 社会福祉実習における「施設実習」について

##### (1) 意義と目的

###### ①学習と実践の総合

福祉に関する各科目で習得したものを利用者の日常生活の援助ができる実践的な能力と態度を育てる。

###### ②段階別実習目標

第一段階で「基本的内容」、第二段階で「個々の利用者に応じた援助できる内容」とし、第二段階では介護福祉士・施設員として役立てる、完成できる形で実施。

##### (2) ガイドライン

###### ①オリエンテーション(校内・施設・保護者)

保護者のオリエンテーションも実施。実習の直前に保護者と生徒一緒に施設オリエンテーションに参加してもらっている。保護者の意識・施設側の意識も高まるようである。

#### 5 社会福祉実習における「在宅福祉実習」について(ホームヘルパー1・2級研修との関係)

昨年3月にホームヘルパー1・2級の承認を受ける。何回かの研究授業、指導内容の説明を行いようやく認めてもらえた。その中でも、問題になったのが、目標にある「チーム運営方式」であるが、これは真岡市の高齢対策課の主任ヘルパー中心になり、本校で生徒の前で「チーム運営方式のケース会議」を開いていただき、解決することができた。地域の協力と理解で、認めていただいたといえる。

##### 6 今後の課題

施設実習が1週間という短期間で集中実習を行わなければならないという現状。今後その前後の授業を繋がりをもたせる形で充実させていかなければならないということ、そして、1日実習と集中実習との関連性を生徒にどう位置づけて考えさせていくかを工夫することが大切であると考えている。

実習施設が数多くなると、施設先で実習内容に格差が見られる。協議会をもっと充実させていかなければならない。チェックリストをもつ

と徹底させて格差をなくそうと考えている。

受け持ち利用者との関わりをケアプランにつなげられるような指導をしていかなければならない。最後に、資料の最後に私の指導案を掲載している。授業の工夫が私達の勝負のできることだと考えて、指導案の大切さを見直し、きちんと指導案をたてて授業に臨むように心がけている。そこで、恐縮なところ提案だが、今後の会で先生方で年1回指導案を持ちより、より生徒のためになる授業を共に考えていきたい。

#### 二 高校生の視点における介護計画の実践報告

静岡女子高等学校教諭 佐藤 完

##### 1 事例報告の作成を通して

「介護概論」の復習および「介護技術」、「社会福祉実習」の授業等からそれらの関連について確認。当時厚生省より介護プランが発表されて2年以上が経過していたが、実習施設の中には、導入に先駆けて勉強会、研修を行う施設が見られ、本校でも高齢者アセスメント表を利用することを決め、各実習施設での了解を得た。2年次の事前学習ではアセスメント表をチェックすることで自動的に情報が収集できることは理解できたが、問題領域18項目、約350の評価項目、医療的項目の多いこと、表現の理解が困難なことなどで生徒へは負担が多く、結果的にはケアプラン策定の基礎となる利用者の基本的事項の収集に留まるだけであった。しかし十分に活用することができず、時期尚早であったことに大きく反省。しかし、平成12年からこのアセスメント表により介護が行われることは確実。多少なりともこれを学習したことは生徒にとってメリットになったと考える。次に「高齢者アセスメント表」に代わるものとして、「竹内アセスメント表」を検討した。比較的取り組みが容易であったため、3年次実習に使うことにし、各実習施設の了解を得た。3年次事前実習では2年に掲げた目標に向けて「竹内アセスメント表」を使用し、グループワークにより2年次実習の情報をもとにチェックを行い、実習に臨ませた。一人の利用者について事前評価、介護計画立案、実施、事後評価という一連の介護過程を課題とした。事後学習はグループワークによ

て、実習の課題である一連の介護過程を見直し、事例報告として適当と思われる一例を選んだ。今までは、施設の利用者を対象として基礎的な介護過程の展開について学んできた。現在は在宅者の介護実習は認められていないが、これからは新ゴールドプランによって在宅サービスの充実が目標と思われる。将来在宅介護に携わるとき介護の基本は同じでも特殊性を踏まえ、正しい観察によって正しい情報を把握し、施設実習で学んだ介護計画を大いに活かし、最もその人にふさわしい介護計画の立案ができるよう指導していきたい。利用者のP-ADL、I-ADLについては単に自立とか半介助ではなく具体的に事象を捉えた表現をさせた方がよりよい介護に展開できるのではないかと思われた。また、専門教科とHR担任との連携を持つことは大切であるが、少なくとも「介護概論」「介護技術」の担当者とは深い関連性を持っていかなければならないと考えている。終わりに、施設で行った利用者の介護計画、実践の記録を学校に持ち帰り、あらためて利用者がその人らしく生活できるよう援助していくにはどうしたら良いか。自分には何ができるのか。介護とは何か。を試行錯誤しながら1つの事例としてまとめ、施設指導者の参加により発表した。事例としてまとめる中で生徒達は充実感をもって取り組んでいた。介護は「見る」という知的な要素は言うまでもない。介護は「気づき」と「配慮」と言われる。常に相手を尊重し、謙虚な姿勢で接することが大切である。それには「豊かな感性」「思いやりのある優しいまなざし」が土台となると思われる。これを育てるには専門外の教科も大いに関わっているのではないか。また、日ごろ行われているボランティアの体験、日常の人とのふれあいが大きく影響しているのではないか。事例発表会を持ったことも大きな意義があった。

本校の福祉科本年3期生を送り出した。今後、介護を必要とする多くの人々の「幸福」に大きく貢献し、介護福祉士としての役割を果たすことのできる生徒を育てていきたい。

##### 2 それを取りまく側面

###### (1) 一般教科の取り組み

英語科の童話創作の紹介

###### (2) OA機器の取り組み

事例報告会資料作成に利用、スキャナ、OCRソフト、インターネットを有効に活用すべき。

###### (3) 安易なボランティアについて

ボランティアの中身を分析し、「お花のようなこころ」を育むボランティアを選んでいきたい。

#### 質疑応答

##### (司会)

真岡北陵高校への質問を受け付けたい。

(福知山淑徳)

- 施設実習保険の施設内自己保証は個人負担で集めるのか。
- 栃木県の学校ではどこも一律実習指導費1日1500円となっているのか。
- 実習事後指導についてお聞きしたい。
- 実習時期はいつ施設に連絡しているのか。実習先との連携の取り方はどうされているか。(真岡北陵)
- 施設実習保険は県費から支払っていただいている。
- 栃木県は私立の学校はなく、県立ばかり、県の方で一律1日1500円となっている。
- クラス内で話し合い、施設からの評価表を利用しながら施設実習担当者が個人面談形式で行い、次回につなげられるような事後指導をしている。後輩への伝達講習会については、やりたいという気持ちはあるのだが、まだ本校では実施していない。
- 施設とは2月に施設長・指導員の方に来ていただき反省会を行い、その時点で来年度の実習計画・生徒の割り当てを決め、伝達を行っている。(不動岡誠和)
- 実習評価は施設評価・学校評価どのような位置づけでなされているのか。(真岡北陵)
- 実習評価で施設評価は実質の評価にはつなげていない。参考にしている。(司会)
- 深刻な問題だと思うが、他に意見がないか。(静岡女子)

- 生徒の1日の自己評価、実習終了後の自己評価も全体評価の参考にしている。  
(光星学院)
- 生徒の自己評価は、点数だけでなく文章でも書き込ませ、施設評価表においても励ましの言葉を文章で書いていただき、これらは参考にしている。評価の主な観点は生徒の実習ノートの記録とし、前言ったものは参考としている。  
(司会)
- 施設の実習評価を加味している学校はほとんどであるようであるが、施設によって評価基準が異なっていると思うが、どのように施設評価を実習評価に加味しているのか。  
(一関第二)
- 施設評価は5段階評価で、必ずコメントを付けてもらっている。直接は生徒に見せず、教師でワンクッションおいて評価すると伝えてから施設間による差は少なくなってきたようである。  
学校側で、だいたいの調整を行っている。  
(司会)
- 施設評価、学校評価、生徒の記録にどのようにウェイトをおいて、どのようにトータル的に評価しているのか。  
(出水中央)
- 8割を施設評価、2割を学内状況における担当者側からの評価としている。  
(司会)
- 全国共通の実習評価の在り方を模索しなければならない時なのかもしれない。この問題について学科主任の代表者会議で話し合い、次年度に経過を掲示するという形でいいか。  
(真岡北陵)
- 施設実習は1施設につき実習生は2~4名。
- 施設の担当教員は分けて同じ教員がいくという形をとっている。2人の教員で12施設を分担。
- 交通機関は、施設実習は本人が行くという形が原則。在宅実習であまりにも遠い場合は特例で学校からタクシーを出している。しかし、原則としては本人が行く形。  
(加世田常潤)
- 休業期間中の実習における教員の巡回指導はどう行っているのか。  
(真岡北陵)

- 長期休業期間中の実習は、教員は学校につめておいて連絡を待つという形をとっている。  
実習中は期間中1度巡回に行き、生徒達にそこで30分ほどの指導を行っている。  
(司会)
- 実習巡回指導はどう行っているか。  
(長浜)
- 実習巡回指導は教員6名、1人1施設担当としている。1~2日に1回授業の合間に巡回に行っている。  
(司会)
- 毎日巡回に行っている学校は、→14校
- 日を置いて1回→16校
- 初日と中日と最終日→9校
- 最終日のみ→8校
- 地域性、施設との信頼関係によるものもあるし、それぞれでいいのではないか。  
(久賀)
- 実習前のカンファレンスの状況は。  
(静岡女子)
- カンファレンスは全員が入っていく指導をしている。  
(司会)
- アセスメント表を使っている学校は、→1校
- 近い将来アセスメント表をつかった授業をしたと考えている学校は。→5校
- アセスメント表は必ずやっておいた方が良い。
- 実習でケースを持たしてもらっている学校は。→16校
- ケースは持たしてもらっていない学校は。→5校
- つづきを明日またやりたい。経験の中でお互いに知恵を出し合えば、いい方向に向かっていけると思う。一人でもいい形で生徒達を送り出したい。お互い協力し合っていきましょう。

## 〔コース等設置校分科会〕

7月23日(休) 14:10~17:00  
若草の間(本館2階)

司会進行 保住 芳美  
矢幅 清司

### 研究協議テーマ

#### 1 本校福祉系列の現状と課題

沖縄県立陽明高等学校 教諭 比嘉 加代  
はじめに

本校は昭和54年に普通高校として開校したが入学してくる生徒たちが多様化し、平成7年大平高校から陽明高校へと校名の変更を行い総合学科としてスタートした。また、今年初めて総合学科の卒業生を送り出した。

- (1) 本校の概要  
生徒数754名(男子316名 女子438名)
- (2) 本校の位置する浦添地区  
市をあげて福祉の町づくりに取り組んでいる。学校の近隣には福祉施設や病院があり、実習での協力を得ている。ボランティア活動にも多くの生徒が参加している。
- (3) 本校の教育課程
  - ① 総合選択科目が123科目ある。
  - ② 5つの系列群に分かれる。  
(福祉サービス系列・情報処理系列・地域振興スポーツ系列・人文科学系列・自然科学系列)
  - ③ 2年より系列を考慮して科目の登録を行うよう指導している。
  - ④ 福祉に関する科目に点字・手話の講座が開設されている。
- (4) 福祉系列サービスについて
  - 1) 選択制のため現在1年が約100名・2年が約50名・3年が約20名の生徒が福祉に関する科目を履修している。
  - 2) 1)の中で2年の44名・3年の11名は福祉の科目を中心に履修している。その他の生徒は1~3科目を履修している。
  - 3) ホームヘルパー2級と介護福祉士国家試験の受験資格は38単位を履修、修得したも

のに与える。

4) 今年初めての卒業生を送り出した。

#### ①履修状況

38単位履修した生徒	40名
ホームヘルパー2級講座修了者	37名
介護福祉士国家試験受験者	31名
介護福祉士国家試験合格者	6名

#### ②進路状況

就職	病院 14	進学	大学 1
	老健施設 3		短期大学 4
	その他 3		専門学校 5
未定	7		

5) 社会福祉実習の実態

実習は2年生(2単位)、3年生(4単位)が6施設で実施している。  
2年は週1回、3年は週2回

(5) 当面する問題と今後の課題

- 1) 系列のため選択で科目の登録を行う。そのため年度によって登録人数に変動があり、職員の定数にも影響がある。
- 2) 生徒の目的意識が様々で一貫した強い指導が困難である。
- 3) 介護福祉士の国家試験受験資格、ホームヘルパーの養成指定校ということをよく理解せず、途中から混乱する生徒がいる。
- 4) 実習に伴う問題点
  - ①交通の問題、交通費、事故の保障、感染の問題。
  - ②老人ホームの受け入れの問題、特にホームヘルパー実習の受け入れは難しい。
- 5) 職員の人材の問題
  - ①専門性をもった職員の配置。
  - ②選択制のため年度により職員の持ち時間に変動がある。
- 6) 介護福祉士国家試験  
今年初めての受験生をだしたが、30%弱の合格者にとどまった。
- 7) 進路について  
3月まで決定が長引き、やきもきました。施設の採用予定がみえてこなかった。また国家試験の2次の発表が3月末のため、資格が就職につながらない。
- 8) 総合学科で自由選択できるといっても介



護福祉士を目指す生徒は38単位履修しないと受験資格を得られないため1年次の早い時期に進路を決定しなければならない。

終わりに

福祉系列やボランティア部の生徒を中心にボランティア活動に参加する生徒も多くなってきた。資格には結びつかないが、福祉に関する科目を学習する中で福祉の心を育て進路に結びつける生徒もいる。一方、福祉人材の専門性を自覚させ、社会に適應できる人材を育てていくのは、生徒も教師も多くの努力とエネルギーを要することを認識し、今後継続して研究していかなければならない。

## 2 「福祉マインド育成の取り組み」について

茨城県立八千代高等学校 教諭 潮田 巧巳 はじめに

福祉については国全体の大きな課題となっている今日、これからの社会の中で中心的な役割を果たしていかなければならない高校生にとって、避けてはとおれない課題である。高校の教育活動を通して福祉に触れることは大変有意義なことであり、実習や体験学習を通して、生徒一人一人がそれぞれの立場を理解し合い、助け合って、共に幸せに生きていける社会を形成していこうとする心を育成することが大切である。本校における福祉マインド育成の取り組みについて報告したい。

### (1) 本校の概要

昭和51年に創立以来、普通科の高校として歩んできたが、平成6年にコース制・総合選択制を導入し、アカデミーコース、ビジネスコース、テクニカルコース、ヒューマニティコースの4つのコースを設定。それと同時に校名を八千代高等学校に改称。平成10年には茨城県で初めての総合学科に学科を改編。6つの系列を設定。

### (2) ヒューマニティコースについて

1) 高齢化社会に対し、社会福祉に関する知識・技能を習得し、社会福祉施設などにおいてサービス業務に従事する能力を育成することを目標とする。

2) 2年生 31名、 3年生 27名

福祉系進路希望者、福祉に興味関心のある生徒がコースを選択。老人介護2単位・社会福祉実習2、3年次で各2単位・3年次で10日間の施設実習・その他に保育2単位、家庭看護・福祉2単位を開設。

### 3) コース制・総合選択制における実践経過

#### ①授業実践

校内実習(シーツ交換・寝衣交換・おむつ交換・食事介助・シニア体験・救急法など)

校外実習(老人ホームなどの8施設において、1人あたり10日間施設実習)

#### ②交流学习

特別養護老人ホーム「西山荘」「霞ヶ浦聾学校」「土浦養護学校」「つくしの家」訪問。

クリスマス会・カルチャークラブでの交流

#### ③その他

リサイクル運動の一環として、空き缶チップによる校章・エンブレム・アンパンマンの絵を作成。「リサイクル紙芝居桃太郎バージョン」を制作し、保育園で上演。

以上の実践は県教育長賞を受賞。

### (3) 総合学科について

1) 本校の総合学科は単位制である。

2) 6つの系列(人文科学系列・自然科学系列・健康体育系列・社会福祉系列・自動車工業系列・流通経済系列)からなる。

社会福祉系列では健康で快適な家庭生活のあり方や福祉に関する教科・科目がまとめられている。

3) 16教科・129科目の中から自由に選択できる。

4) 学びたい科目を自由に選択し、自分で時間割を作成する。

5) 介護福祉士国家試験受験資格・ホームヘルパー2級の資格が取得できる。

### (4) 福祉マインド育成の意義

福祉マインドの育成は、人間としての「在り方、生き方」を決定していくことの根本と

なるものであり、単なる授業の中での取り組みだけにとどまらず、教育活動全体を通じて多大な効果をあげるポイントとなる。

### (5) 福祉マインド育成の取り組みについて

・授業や校内実習では、常に相手の立場を考え、人と人との触れ合いを大切にしている。

・車椅子やインスタントシニアなどの体験学習を行っている。

・校外での施設実習を通して福祉の現場を肌で感じるようにしている。

・講演等で現場に携わる方の生の声を聞く。

・交流体験から、心と心の触れ合いの大切さを実感できるように配慮している。

### (6) 福祉マインド育成の課題

・途中で興味関心をなくしてしまった生徒への指導。

・より専門的に学びたい生徒への対応。

・ボランティア活動の積極的推進。

・個に応じた系列のあり方。

終わりに

いろいろな課題をかかえながらも、本校のヒューマニティコースも4年目をむかえ、生徒の間にも少しずつではあるが「福祉マインド」が浸透し、福祉・看護系への進学及び就職、校内の諸行事やボランティア活動への積極的参加がみられるようになった。今後も福祉の授業にとどまらず教育活動全体を通して、全教職員が共通理解をもち、より一層の努力を重ねていく必要があると考える。

### 質疑応答

(1) 福祉の教員を採用している県もあるが、福祉を担当されている先生方のもっている基礎免許は何か。

「福祉」 1名 「養護」 2名

「家庭」 12名 「国語」 1名

「看護」 4名 「体育」 1名

「公民地歴」 2名 「美術」 1名

(2) 施設実習(1日以上)を行っている学校はどれくらいあるか。

・18名が挙手。(その中で継続的に実習を行っているところに8名が挙手)

(3) 各学校が施設実習を行う場合の実習費や保険加入の状況はどうか。

・「福祉科(コース)活動状況及び協議テーマ(宮崎大会)の調査集計」を参考資料として分科会に参加された各学校がその状況を説明。

・実習は場所をかえた授業であるため県の対応が求められる。何か問題が起きた場合、本人の保障はあるが、対人・対物に関しては家族の問題(感情)等があり、慎重に取り扱わなくてはならない。

・「ボランティア保険」に5割以上の学校が加入している状況である。「その他の保険」は半分以下であり、今後の検討課題の一つである。

・実習費については

「学校負担」1割、「自己負担」4割  
「都道府県からの補助」4割

という状況であった。かなりお金のかかる問題なので今後は県から補助していただくか、交通費だけでも補助してもらう方向で検討すべきではないか。

(4) 実習の交通費に関して各学校どのような状況か。

・「自己負担」11校、「県費、市費」2校  
「個人と県費の折半」2校

「社協の車利用」1校

という状況であった。

・ある学校は交通費として支給されたが、「借り上げ料」としてなので使えない状況であった。

(5) 「介護アテンドサービス士」について

・「介護福祉士」になるための一つの道として結びつきがあったが、現在は無理である。

(6) 実習時間(日数)はどれくらい行っているのか。

・資格のとれる高校の場合、年間で2~3週間実習を行っているところが多い。

(7) 各学校の職員研修についてどのようなものがあるか。

・文部省主催の「技術講習会」への参加。

・研修のあり方として職員が施設で実習していただき、実際体験してみることが一番いいのではないかと。

・先進校への視察。

## 校長部会・研究協議会（その2）

7月24日(金) 9:00~10:00  
芙蓉の間(別館3階)

司会進行 村上 紘揚  
井川 博巳

(文部省・河野公子先生)

教育課程上、必修とすべき教科・科目が現在のところ総合的な学習として3~6単位定められている。高校では、課題研究を当てることができるが、福祉に関する学科においては、「社会福祉演習」をやっているところが多い。

(厚生省・喜田川典秀先生)

現在の介護福祉士は、5月末の時点で、129093人、6月末には130000人を越えている。その内訳は、国家試験受検者70792人、養成施設卒業者58391人である。この数字は近年、介護福祉が「資格」として位置づいてきていることを示している。福祉系の専門学校が、本年新たに290校開学し、国家試験を受けていない介護福祉士が、毎年2万人近く誕生している。専門学校と高校が、互いに牽制しあっている現状が見られる。

〈今後の福祉の展開、介護福祉士のあり方についての各学校の意見等〉

(菊池女子高校)

年々、介護職への就職が厳しくなっている。要望として病院でも介護士を雇って欲しい。また、福祉科における専門教員の確保が急がれる。職がないため「社会福祉士」の人たちまでもが、介護職へついている矛盾が起きている。他県では、どういった対応をしているのか知りたい。

(厚生省・喜田川先生)

新ゴールドプランによって施設ケアは比較的、介護面が充実しているが、在宅ケアが不十分である。国の対策としても施設ケアよりも在宅ケアを高めていきたい。2022年にはホームヘルパーが58万人必要だといわれているので、在宅の方での需要が見込まれるのではないかと。

さらに、社会福祉士、介護福祉士は、名称独占であるから、福祉に関する品質保証はされている。

そこで、福祉科への要望として、学校ごとに目標をきっちり定め、中途半端でなく、学校独自の「売り」を作りたいということが挙げられる。ぜひとも、介護福祉士の資格を取らせて卒業させるべきである。

実習施設は、それぞれによってかなり違いがみられる。全国的に、ある程度の規定をもったら良いのではないかと。

(厚生省・喜田川先生)

実際に施設において、介護職の人数は決まっているが、そのうち資格を有している者の人数が決まっている訳ではない。(現在は3~4割が有資格者)しかし、有資格者が増加していることから、ある程度のラインを定めることも必要となってくる。半数くらいは、資格をもっている施設の方が望ましい。

(川崎高校)

資質の向上のため、本校においてはホームヘルパー2級の資格しか与えていない。1級を取らせているところの状況を知りたい。

(司会:村上)

ホームヘルパー1級は、施設でかなり重視されている。2級しかとらせていないところでも働きながら1級を取得するのが望ましいのでは。

(厚生省・喜田川先生)

ホームヘルパーは、県が責任を持ってやっているのが現状である。1級は、枠がかなり少ない。

1級は、コーディネーターとして指導者業務を行う。最も現場で主力となるのは、2級である。就職上、最低でも2級はあった方がよい。

(大垣桜高校)

専門職のカリキュラムの見直し、理産審答申の発表、学校5日制に関して、これからの見通しを聞きたい。

(厚生省・喜田川先生)

専門科目は、現行2年間で1500時間必要である。現行3年課程とすることは考えていない。学校において、医療・保健・福祉の知識を増やすような指導の充実をはかって欲しい。また、在宅における実習教育のあり方、介護支援サービス等の知識を増やすよう見直しして欲しい。福祉系の高校のカリキュラムの中味については、文部省と厚生省で、十分話し合っていかなければならない。

(陽明高校)

総合学科で、今年は国家試験に10名合格した。新たに「介護福祉科」を設立しようとする場合、教育委員会サイド、知事部局等との連絡会議を持つべきものか。また、就職面、在宅ホームヘルパーに同行させての実習など、問題が山積して先が見えない状況である。他県では、どういった対応を行っているのか。

(岡山県)

行政同志の連絡会議はない。今から出てくるのでは。

(北海道)

連絡会議なし。

(兵庫県)

県の保健環境部等と連絡会議は、行っている。また、各県立学校の福祉科同志で互いに情報交換をやっている。

(文部厚:河野先生)

福祉科を設立した時点で、県などとの話し合いはなされているはず。福祉科を設置する場合、出口のこと、カリキュラムのことなどよく検討を重ねて設置すべきである。例えば、岩手県の一関第二高校の場合、生徒の出口のことを考えて、半分進学、半分国家試験向けのカリキュラムに決定した。ここ3~4年、状況が、かなり変化した。福祉に関する大学、短大、学科、専門学校が非常に増加した。福祉科が出来上がってからの努力は、校長先生の方から行政に働きかけていく必要がある。地域の中でどういうニーズがあるかを知り、地域へのPRをもって盛んに行なって欲しい。

## 主任部会・研究協議会（その2）

〔学科設置校分科会〕

7月24日(金) 9:00~10:00  
芙蓉の間(3階)

司会進行 池田 延己  
松本 寿子

(司会)

昨日の2校の実践報告について、質問、意見などあればあげていただきたい。

(長野上田千曲)

○静岡女子高等学校のように、他教科との関連をもたせた福祉教育を実践されているところが他にあれば教えていただきたい。

(静岡三島)

人体については、生物で学ぶので医学では省いている。またレクリエーション指導法は体育科と連携を取り合っている。

(三重上野商業)

課題研究の中で英語科と連携を取り、ボランティア英語を選択で学ばせている。また、学校の福祉科棟を地域の研修の場として提供し、社会福祉協議会と連携を取りながら生徒も参加する機会を設けている。

(司会)

今後「福祉情報処理」の新科目において、情報処理の先生との連携が必要となってくるであろう。

続いて昨日依頼してあった質問用紙が数枚提出されているので、助言や意見を求めていきたい。

○国家試験の正答は公表してもらえないのか。また、1次の結果をまとめて学校へ教えて欲しい。

(函館大妻)

試験センターでは公表する意見はない。どの学校が、また高校生が何人受験しているのかも公表はされない。厚生省も同じで、医師や看護婦の国家試験の情報も堅くガードされている。昨年より事務局で正答をまとめて各校へ送付しているので活用していただきたい。ただし、±5点程度の誤差を考慮する必要あり。

○学科創設時のポイントや工夫点を教えて欲しい。

(青森東奥学園)

知的障害者、ろう学校の同世代の生徒たちとの交流を図ることで、自然にノーマライゼーションの精神を養わせている。

○どの時間に実習に出しているか。〈挙手〉

1年生7校、3年生のみ1校、2年生残り全て

○在宅福祉実習を実施しているか。〈挙手〉

実施している42校。(いずれもホームヘルパーとの関連で)

○ボランティア保険は実習でも有効なのか。

〈挙手〉ボランティア保険に加入23校。

(函館大妻)

校外実習は単位に入れていないため、あくまでもボランティアという建前であるから、ボランティア保険が有効である。

(静岡三島)

1人1210円で、障害、損害賠償保険全て社会福祉協議会がみてくれる。

(神奈川高浜)

ボランティア保険は1人500円で社会福祉協議会が払ってくれる。対人対物保険は12日間1人80円、上限1億円の内容でかけているが、十分な保障が得られるか心配である。

(司会)

250以上の福祉系の高校がある今、全国で統一した共通の掛金、保障が得られる保険を考えるべき時期にきていると思う。校長会へ投げかけたい。

(埼玉不動岡誠和)

事務局の方でも、今後感染に対する保障もついた、ボランティア保険とタイアップしたものを考えていく方向である。

○実習中の通勤費をどうまかなっているか。

〈挙手〉実習費として月々徴収8校、その都度徴収6校、年間費として1回徴収12校。なおその金額が5000以上のところ12校。

○実習記録の記入短縮化を図るための知恵。

〈挙手〉実習中に記録をする時間がもらえているところ9校。持ち帰り翌日提出をするところが残り全て。

#### —指導講評—

文部省初等中等教育局職業教育課教科調査官  
細江 容子先生

これからは、インターネットでの情報交換や学会形式による大学教授との学習や情報交換などにより、教師自身が学び自己改革をはかっていくことが必要不可欠である。また今後、介護分野は利益の出せるビジネスとして、職業的市場の広がりが見込まれるため、企業人としての人材を世に送り出す、専門高校における職業的方向性を充分考えていただきたい。評価については、生徒の今後の成長に生かされるべきものでなくてはならない。  
(まとめ)

実習の評価については、今後事務局の方でも原案をつくり、細江先生の指導のもとにあり方を考えていくこと。また来年は全体会を復活させることを確認して閉会した。

#### 〔コース等設置校〕

若草の間(本館2階)

司会進行 保住 芳美  
矢幅 清司

(司会矢幅)

昨日に引き続き、取り扱ってほしい議題や質問について協議していただきたい。

(富山新川女子)

① 平成5年に福祉コースを導入したが、将来学科を設置することでメリット・デメリットはあるのか。

② 高校段階でのホームヘルパー1級取得は妥当なのか。

③ 来年度より全校でボランティア学習を行う予定だが福祉コースだけでなく、他学科も含んだ福祉教育の実践例についてうかがいたい。

(沖縄陽明)

①の質問に対して、本校は総合学科内のコース選択で福祉学習に取り組んでいるが、福祉科にすることで指導が強化できる。その反面、卒業後の進路、専門指導の確保等の問題があるのではないか。

②の質問に対して、本校はホームヘルパー2級資格まで与えているが、介護福祉士国家試験合格者には1級を取得させて良いのではないか。

(神奈川高浜)

②の質問に対して、ホームヘルパー資格取得はない。福祉教科10単位を履習していく中で、幅広い体験を通し自分の進路を選択し進学してから詳しく学習し資格を取得すれば良いのではないか。

③の質問に対して、地域ボランティア団体と連携をとり運動会等の参加、準備から片付けまで一緒におこなっている。

(神奈川川崎)

①の質問に対して、将来福祉関係に進学や就職する生徒には指導しやすいが、そうでない生徒への対応や進路変更が困難である。

(司会矢幅)

ホームヘルパー1級資格取得について意見があればお願いしたい。(意見出ず)

本校では介護福祉士資格取得者に1級を与えている。しかし1級取得は福祉への入口と考え、専門職に就いた後も研修を積ませて欲しい。資格を取ることは終わりではなくスタートであることを認識させ、福祉の世界で生きていくきっかけにして欲しい。

ボランティア活動単位認定についてはどうか。

(不動岡誠和)

学校で35時間を取るようになっているが、認定されているわけではない。

(司会保住)

本校は2単位としている。卒業単位が取れない時はボランティアをした時間も評価に加えている。

(司会矢幅)

大学では、ボランティアの単位認定の動きは少しずつ出てきている。

(神崎清明)

平成11年度よりホームヘルパー2級を取得予定なので県へ申請中。資格取得については家庭科職員と外部講師で対応するが、外部講師の先生方への謝礼はどのようにされているのか知りたい。

(司会矢幅)

この中でホームヘルパー資格認定をどこまで出されているか教えていただきたい。

○1級認定 2校

○2級認定 6校

○3級認定 3校

ホームヘルパー資格申請に関する工夫については、申請して時間がたてれば承認してもらえる。厚生省38単位の授業時間の点検を県で見られるところがあるが、実質は書類に不備がなければ承諾していただける。

対応する職員は、家庭・看護・福祉だが、資格を持っている先生やボランティア活動をさかんにされている先生に頼ってしまい、その先生が転勤された後に福祉教育がしぼんでいたり、転勤先

の学校のボランティアがさかんになる実例もある。福祉教育が組織で働くことができ維持できるような学校体勢はできているのか。

では、外部講師への謝礼について教えてほしい。

(神奈川川崎)

本校は、医師は50分で5000円、施設長や指導員は50分で2800円としている。

(富山新川女子)

本県は家庭教員の講師は認定されていない。

外部教師の派遣については、社会福祉協議会よりホームヘルパー1級取得者を招き本校生徒に、ホームヘルパー3級取得のための指導をしてもらっている。

(司会矢幅)

本校の家庭科職員がホームヘルパー2級講師として他校へ指導に行っている。

介護福祉士国家試験が始まって10年目だが、問題を作るのは看護婦や医師であり矛盾している。

講師認定については、校長経由で知事に申請してみてもどうか。また富山県は社協の力が強いので社協によって申請をお願いしてはどうか。ただし生徒を使う時は学校主体で行う姿勢を忘れず、決して地域に預けすぎないこと。

(富山新川女子)

社協は活動のさかんな地区とそうでない地区があるため難しい現状である。

(司会保住)

山口県の久賀高校は県の指導でホームヘルパー1級が取れると聞き、直接話を伺いに行ったり、会議に参加したりした。

本校は他県との対比表を持って県へ行き、ようやくホームヘルパー1級取得が認められた。県へ圧力をかけることも必要なのではないか。

(香川三木)

本校は介護福祉士受験資格はあるが、ホームヘルパー1級は取得できない。その理由として総合学科なので生徒のばらつきがあることと、養成講座のテキストを使っていないことである。テキストはとても高価だが、生徒1人1人に持たせることが申請条件と県から言われたのですが、どうしたらいいでしょうか。

(司会保住)

他県との対比表を作って県へ申し込むと良い。

山口県を例にして、テキスト購入は条件でなかったと言ってみると良いのではないか。

## 部会報告・指導講評・閉会行事

7月24日(金) 10:10~12:00

ロイヤルホール(別館2階)

司会進行 山田 邦男

〈部会報告〉 10:10~10:40

### 校長部会報告

井川博巳(北海道釧路星園高等学校校長)

研究協議の1つめに、文部省の河野公子視学官に基調講演をしていただいた。教育改革プログラムのポイント4項目、中教審の進捗、教育課程審議会のまとめのポイント、そして理産審の答申のポイントの話があった。

教員養成の問題については、昭和36年の中学技術ができた時の認定講習が例になるのではないかとのことだった。現在福祉の科目を担当し実績をあげている先生方を評価してほしいという意見に対し、福祉の校長会から文部省教職員課に要望を含めた報告が必要であろうとの助言もいただいた。

厚生省からは、福祉の学科として目標を明確にし、質の高い介護福祉士を育ててほしい。ホームヘルパー1級取得については、2級が介護の主力になるので2級があれば就職に有利でなかろうかという助言があった。また、福祉の学科を設置する時に県教育委員会と県知事部局との連携が今後必要だろうということだった。

### 主任部会報告

学科設置校:池田延己(函館大妻高等学校教諭)

真岡北陵高校における実習の取り組みについて説明があり、指導案が示された。次回に向けて各校で指導案を作成し、次年度持ちよると良いとの提案があった。

静岡女子高校からは、計画的に指導してきている実践報告があった。

また、校長会で保険について検討してほしいという要望が出た。実習の評価は、細江先生の指導を仰ぎ、全国统一したものを次年度決定したい。

コース設置校:

保住芳美(ベル学園高等学校教諭)

陽明高校より、総合学科でありながら自由選択が少なくなってしまうという課題について発表があった。八千代高校からは、昨年度までのヒューマニティーコースは資格取得がなかったが、今年度総合学科となり介護福祉士受験資格、ホームヘルパー2級の資格をもって卒業することになるということだった。各学校の問題点等について時間いっぱい討議することができた。

〈指導講評〉 10:40~11:30

司会進行 菅野 純孝

文部省初等中等教育局視学官 河野 公子先生  
この2日間、校長先生方の分科会に参加したが、主任の先生方と話をする機会がなかったため、改めて4項目について話をしたい。

まず今回の理科教育及び産業教育審議会の答申においては、改善充実の基本的方向が6点ほどある。1つ目は専門性の基礎基本の重視である。業をふまえつつそれにこだわりすぎることなく、さらに学ぼうとする意欲とその基礎基本を押えるべきではないか。

2つ目は一人ひとりの個性を育て伸ばしていく教育の展開ということで、普通教育の必修科目を減らすのがねらいである。

3つ目は、教科「情報」「福祉」の創設と社会の変化に適切に対応した教育の展開で、理産審の大きな目玉の1つである。

4つ目は、専門高校と産業界や地域とのパートナーシップの確立。5つ目は継続教育機関との連携の推進である。これについては文部省としては既に制度化されており、高等教育局に働きかけ、補習教育の予算もついている。

6つ目は、各学校の創意工夫を生かした教育の展開ということである。昨年度あたりから熱心に授業公開をしていただいております。福祉科の先生方の行動力、実践力に敬意を表するところである。

教育課程に関することとして、必修の教科・科目は、35単位から31単位に減り、「情報」が「福祉情報処理」で、総合的学習の時間を専門の科目でそれぞれ代替できることになったので、これまでよりは窮屈でない教育課程が編成できると思う。

福祉に関する教育の充実については、教員養成が問題となるであろうが、現在福祉を担当している方に何らかの措置をして教員免許を授与する必要がある。方法として認定講習、認定試験等が前例となるのではないかと。教科書は検定受理科目にしようと思っている。教材・副教材は、ぜひ福祉科の学科主任会、校長会で充分検討していただきたい。条件整備については、教員定数を看護並にしたいが、それについても校長会として要望してほしい。

資格取得に関し、介護福祉士については受験資格要件が定めてあるが、学習指導要領の改訂に伴い科目の変更がある。また資格要件として家庭科の教育内容が重すぎるという声があるので、厚生省と検討していきたい。ホームヘルパーは継続教育、生涯教育という視点から、1級でなくてもよいのではないかと。思う。

進路については、昨年現在6地区で研究協議会をもっているため、それらを有効に活用してほしい。

### 厚生省社会・援護局施設人材課

喜田川 典秀先生

2日間皆さんと過した感想を述べたい。一言で申しますと、皆の熱意が響いてきた大会であった。

研究協議Aについては、実習の取り組みが興味深かった。今後の福祉は在宅福祉に傾斜していき、それを担う人材をどうするのが問題となる。ホームヘルパーとの同行訪問では技術が身につかず、技術を先行すると施設実習が多くなる。専門性が高い介護福祉士を養成しなければならないと思うが、その先につながるように卒業教育、現任研修の必要性を感じる。

厚生省の課題として、福祉の方向性と人材の養成の確保の見通しについてあげられるのではないかと。高齢化は平成26年のピーク後減少するであろう。しかし、社会福祉の分野は高齢者だけでなく、障害者プランも進めている。「障害者と共に

生きていくためには…」という中で、介護福祉士などの専門職が果たす役割が重要になってくるだろう。

最近、福祉系の大学、短大が増加している。保育の場合、高等学校で一生懸命やったものを崩さなければならないという話があったが、福祉の場合は少し違うのではないかと。大学・短大は知識偏重の為、経験が少なく、臨床面・技術面の認知が非常に低いので、現場に根づいた福祉教育になっていない。そういった中に、地域に密着した形で実習に取り組んできた福祉系高校の卒業生が行くということは、お互い学び合い成長するための一種の起爆剤となるのではないかと期待している。

難しい状況であるが、引き続き皆様方いろいろな面で努力を願いたい。

〈閉会行事〉 11:30~12:00

### 1 開会のことば

石川県立田鶴浜高等学校長 山田 邦男

### 2 主催者あいさつ

全国高等学校長協会家庭部会理事長

中川 武司

初めて参加したが、中味の濃い勉強をさせていただいた。

1日目は理事会で四国ブロックが独立すること、副会長を新たに設けることが提案され了承された。

2日目、薄井先生の講演では、看護教育に携わってきた実践と経験をもとに、説得力を感じた。

理産審の答申とこの総会が重なったことは大変意義深く感じる。学習指導要領に「福祉」が明確に位置づけられたので、指導内容の充実も急がねばならない。指導教員のさらなる努力が必要である。

この2日間で学習したことを各学校にもち帰り、核となって推進いただきたい。

全国福祉科高等学校長会会長 本橋 恒雄

文部省、厚生省の先生方には長時間、多岐に渡り御指導いただいた。2日間にわたる研究協議会も大変充実した素晴らしい内容であった。この大会において一挙に夢が具体的な形に変化してきた

ことを、充分感じとったのではないか。

各学校に成果を持ち帰り、福祉教育の内容、実践がより充実し、発展することを願いたい。

- 3 次回主幹校あいさつ  
ベル学園高等学校長 丸山 哲朗
- 4 主管校あいさつ  
宮崎県立門川農業高等学校長 岩村 隆博
- 5 閉会のことば  
兵庫県立新宮高等学校長 村山 紘揚

## 宮崎大会を終えて

宮崎県立門川農業高校（主管校）  
校長 岩村 隆博

主管校依頼は、突然福岡県から、平成10年度の全国福祉科校長会を宮崎県で引き受けてもらえまいかという電話を平成9年4月、県立妻高校が受けたのが発端でした。その理由は、長崎県にきまっていた主管校が学校の問題で駄目になり、その後鹿児島県が引き受けたがそれも出来なくなり、このままでは九州地区での全国大会開催は出来ない状況になっているので、何とか宮崎県で引き受けてもらえないかということでした。当時九州地区理事の福岡県では、平成10年全国産業フェアが開催されるのでそちらの準備があり福祉科の全国大会を引き受けることは無理だということでした。急遽他の地区に変更することも、まだどの地区も組織が出来てない状況なので急に言われてもどこも出来ないだろうとのことでした。条件としては宮崎県も同じでしたが、宮崎県がやらないと発足して4回目でおまけに九州地区担当で穴を開けることになる。「何とかしよう」ということになった。この大会にまだ1度も参加したことがないのでどのような大会かはわからないが会場の準備は出来るだろうということで、福祉科をもつ県立高校4校で引き受けることにしたのが本大会のスタートでした。中心になる事務局校（主管校）は、校長が一番年配の門川農業と言うことになった。準備は今年の福井大会を見ないと中身がわからないのでそれからにすることにした。本校はまだ福祉科の生徒は1年生だけで、10月からは福祉科主任が国内留学で、正規職員が1名になるので新年度にならないと準備は出来ない。準備期間3ヶ月、会議はすべて宮崎市で4校とも出張（学校負担）、準備委員会は校長と学科主任で行うことにした。そのため他の職員は大会当日初めて会場を見、自分の担当の仕事に就いたのが実情でした。4校の福祉科の職員だけで、ぶっつけ本番でしたが、会場設営、大会運営等参加された先生方から過分なお褒めの言葉をいただきましたので心配したより良かったのではないかと考えています。

これも前年度主管校福井県立大野東高等学校、事務局校不動岡誠和高等学校、全国家庭部会理事長中川先生、そして堀内事務局長様のご指導、ご援助によるものです。心より礼申し上げます。

## 主管校の学科主任として

宮崎県立門川農業高等学校  
福祉生活科 三宅 靖子

昨年10月から今年3月まで隣の大分県別府市の別府大学短期大学福祉専攻科に内地留学の機会をいただき、私は半年間、学校現場を離れていた。

4月に、久しぶりに生徒と顔を合わせ、学校生活の感触を心地よく感じながら、第1期生である現2年生40名の担任もすることになった。大会まで3カ月半で準備を進めていくことに、多くの不安を感じていた。

まず、県内4校の福祉生活科での打合せをし、「やれることをやれる学校でしていきましょう。みんなで力を合わせ頑張りましょう。」とスタートした。大会案内の発送が4月末にようやく間に合い、第1便の返事が来た時は「九州の果ての宮崎までお越し下さる先生方のためにこの会は成功させましょう。」という気持ちが芽生えた。埼玉の佐藤先生、前回の大会の福井大野東の先生、県内4校の先生方、ホテル……電話やFAXのやり取りが続いた。出席の先生方と電話などで連絡を取ると「お疲れさまです」と励ましのお言葉をいただいた。フロッピーの容量がいっぱいになるにつれて、その重みを感じた。連日、印刷会社に訂正した原稿をドアの隙間から差し込んで帰る日が7月上旬に続いた。親子のような年齢差の校長先生と校長室でよく打ち合わせをし、色々と不備な点を気にかけて下さって至る箇所でアドバイスを頂いた。7月16日。ピンクの表紙の大会要領を受け取ったときには不安も消えていた。

大会当日は、梅雨明け間近の快晴の空と各農業高校で装飾した花々が出迎え、宮崎の良いPRになった。太鼓のアトラクションをした「響座」は現在宮崎で「元気出して！」とCM出演中である。

いま大会を終え、私たち福祉科に携わる者が「元気出して」福祉の現場を盛り上げていかなくてはならないと感じている。夏も終わり、本校の第1期生が実習に出ようとしている。初めての実習で不安も多いが、現場での体験で成長することを期待している。本当にいろいろとお世話になりました。有り難うございました。

# 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会規約

平成7年10月12日施行  
平成10年7月23日改正

## (総則)

- 第1条 本会は全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会と称する。  
第2条 本会は全国高等学校長協会家庭部会の研究協議機関として、福祉科教育の振興を図ることを目的とする。

## (組織)

- 第3条 本会は全国の福祉科（福祉科に準ずる）を置く高等学校の校長で組織する。  
第4条 本会は次の地区を設ける。  
1. 北海道地区                      6. 近畿地区  
2. 東北地区                         7. 中国地区  
3. 関東地区                         8. 四国地区  
4. 北信越地区                      9. 九州地区  
5. 東海地区

## (事業)

- 第5条 本会の目的を達成するために年1回の総会・研究協議会を開催するほか、研究活動、広報活動等を行い、また学科主任の連絡、情報交換、研究協議等の事業を行う。

## (役員)

- 第6条 前条の事業を行うために本会に次の役員を置く。  
1. 会長                                1名                      3. 理事                      各地区 1名  
2. 副会長                            1名                      4. 監事                      2名  
第7条 役員は理事会を構成し、本会の企画・運営に当たる。  
第8条 役員を選出方法は次のとおりとする。  
1. 理事は各地区ごとに総会で選出する。  
2. 会長は理事の互選とする。  
3. 監事は会長が委嘱する。  
4. 副会長は会長が委嘱し理事を兼ねることができる。  
第9条 役員任期は2年とする。但し再任は妨げない。  
第10条 本会の事務局は会長高等学校に置く。

## (会計)

- 第11条 本会の経費は会員の会費で支弁する。

## (付則)

- 第12条 この規約は平成7年10月12日から施行する。

# 全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会学科主任代表者会

氏名	ブロック	公私	学校住所	TEL FAX
池田延己	北海道	私	函館大妻高等学校 北海道函館市柳町14-23	0138-52-1890 0138-52-1892
矢幅清司	東北	県	一関第二高等学校 岩手県一関市赤荻字野中23	0191-25-2241 0191-25-5432
佐藤知行	関東	県	松戸矢切高等学校 千葉県松戸市中矢切54	047-368-4741 047-368-4396
中村由美子	北信越	県	大野東高等学校 福井県大野市友江9-10	0779-66-4610 0779-66-5577
松本寿子	東海	私	三島高等学校 静岡県駿東郡長泉町竹原354	0559-75-0035 0559-76-0735
長森順子	近畿	県	新宮高等学校 兵庫県揖保郡新宮町新宮27-1	0791-75-0018 0791-75-2549
保住芳美	中国・四国	私	ベル学園高等学校 岡山県岡山市下伊福西町7-38	086-252-2101 086-253-0582
三宅靖子	九州	私	門川農業高等学校 宮崎県東臼杵郡門川町門川尾末2680	0982-63-1336 0982-63-5194
荒川公子	北海道	市	釧路星園高等学校 北海道釧路市武佐4-28-10	0154-46-1538 0154-46-1941
佐藤恵子	関東 (事務局)	県	不動岡誠和高等学校 埼玉県羽生市神戸706	0485-61-6651 0485-60-1051

全国高等学校長協会家庭部会福祉科高等学校長会加盟校一覧

(Noの 印は本大会参加校)

都道府 県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
北海道	1	私	函館大妻高等学校 〒040-0002 函館市柳町14-23	福祉科	外山茂樹 0138-52-1890	池田延己 0138-52-1892
	2	村	留寿都高等学校 〒048-1731 虻田郡留寿都村字留寿都179-1	農業福祉科	内田重雄 0136-46-3376	高柳和昇 0136-46-3386
	3	道	置戸高等学校 〒099-1112 常呂郡置戸町字置戸256-8	生活福祉科	堀江健二 0157-52-3263	岡嶋弘実 0157-52-3263
	4	市	釧路星園高等学校 〒085-0806 釧路市武佐4-28-10	教養福祉科	井川博己 0154-46-1538	荒川公子 0154-46-1941
	5	町	剣淵高等学校 〒098-0323 上川郡剣淵町栄町6215	農業・生活科	水戸部洋二 016534-2549	高橋真一 016534-2694
青森	6	私	東奥学園高等学校 〒030-0822 青森市中央2丁目15-17	福祉科	大久保貢 0177-77-2760	田中泰恵 0177-75-8375
	7	私	光星学院高等学校 〒031-0812 八戸市湊町字上新井田道8	保育福祉科	中村キヤ 0178-33-4151	中村千鶴子 0178-31-6287
岩手	8	県	西和賀高等学校 〒029-5503 和賀郡湯田町19-25-2	普通科	西俊六 0197-84-2809	近藤健一 0197-84-2844
	9	県	一関第二高等学校 〒021-0041 一関市赤萩字野中23	福祉教養科	菅野純孝 0191-25-2241	矢幅清司 0191-25-5432
	10	県	久慈農林高等学校 〒028-0021 久慈市門前36-10	福祉教養科	柿澤雅邦 0194-53-4371	浅川義人 0194-53-2540
	11	県	一戸高等学校 〒028-5312 二戸郡一戸町一戸字時前60-1	福祉科	齋藤文雄 0195-33-3042	佐々木徹 0195-33-3933
	12	県	岩谷堂高等学校 〒023-1122 江刺市館山4-47	総合学科	畠中祥夫 0197-35-1911	桜井京 0197-35-4677
	13	私	盛岡スコール高等学校 〒020-0851 盛岡市向中野字才川2-3	総合学科	宮本義孝 019-636-0827	田中力 019-636-0830
宮城	14	県	村田高等学校 〒989-1305 柴田郡村田町大字村田字金谷1	総合学科	佐藤寛 0224-83-2275	日吉ふく子 0224-83-2276
秋田	15	県	大館桂高等学校 〒017-0876 大館市餅田2-3-1	普通科	栗田廣 0186-49-1010	成田多美枝 0186-49-1011
	16	県	西目高等学校 〒018-0604 由利郡西目町沼田字新道下2-142	総合学科	蛭田聰 0184-33-2203	小松富美子 0184-33-2203
	17	県	雄勝高等学校 〒019-0112 雄勝郡雄勝町下院内字小白岩197-2	普通科	高橋則雄 0183-52-4355	高橋道子 0183-52-4356
	18	県	増田高等学校 〒019-0701 平鹿郡増田町増田字一本柳137	総合学科	佐藤良治 0182-45-2073	庄司聡子 0182-45-2088
	19	組合	公立合川高等学校 〒018-4221 北秋田郡合川町下杉字中島54-2	介護福祉科	大山義武 0186-78-3177	増山裕弘 0186-78-3178
	20	県	湯沢北高等学校 〒012-0823 湯沢市湯ノ原2-1-1	生活科学科	杉治男 0183-73-5168	小松田絢子 0183-73-5169

(Noの 印は本大会参加校)

都道府 県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
山形	21	県	山辺高等学校 〒990-0301 東村山郡山辺町大字山辺3028	福祉科	細谷壽守 0236-64-5132	巻豊子 0236-64-5462
	22	県	庄内総合高等学校 〒999-7707 東田川郡余目町大字廿六木字三ツ車8	総合学科	地主友昭 0234-43-3452	渡部美恵子 0234-42-1273
福島	23	県	光南高等学校 〒969-0227 西白河郡矢吹町田町532	総合学科	村山正之 0248-42-2205	田母神賢一 0248-44-3373
	24	県	川口高等学校 〒968-0011 大沼郡金山町大字川口字蛇沢2434-2	普通科	七島藤雄 0241-54-2154	日下部文紀 0241-54-2240
	25	町	船引高等学校 〒963-4398 田村郡船引町大字船引字石崎15-3	普通科	斎藤洋一 0247-82-1511	上野敬子 0247-82-5233
茨城	26	県	古河第二高等学校 〒306-0024 古河市幸町19-18	教養福祉科	齋藤二朗 0280-32-0444	萩原明子 0280-31-6602
	27	県	八千代高等学校 〒300-3561 結城郡八千代町大字平塚4824-2	総合学科	豊崎功 0296-48-1836	潮田巧巳 0296-48-3201
栃木	28	県	真岡北陵高等学校 〒321-4415 真岡市下籠谷396	教養福祉科	山口祐司 0285-82-3415	荒井智子 0285-83-4634
	29	県	塩谷高等学校 〒329-2332 塩谷郡塩谷町大宮2579-1	社会福祉科	藤田貞夫 0287-45-1101	堀江久子 0287-45-0986
群馬	30	県	吾妻高等学校 〒377-0894 吾妻郡吾妻町大字原町192	福祉科	東勲 0279-68-2334	未定 0279-68-2747
埼玉	31	県	不動岡誠和高等学校 〒348-0024 羽生市大字神戸706	社会福祉科	本橋恒雄 0485-61-6651	佐藤恵子 0485-60-1051
千葉	32	県	松戸矢切高等学校 〒271-0095 松戸市中矢切54	福祉教養科	本田良夫 047-368-4741	佐藤知行 047-368-4396
	33	県	御宿高等学校 〒299-5102 夷隅郡御宿町久保1528	普通科	石毛昭洋 0470-68-2911	丸ひさ子 0470-68-6886
山梨	34	県	甲府城西高等学校 〒400-0064 甲府市下飯田1丁目9-1	福祉生活科学科	岩田桂 0552-23-3101	中込芳江 0552-23-3103
東京	35	都	大泉学園高等学校 〒178-0061 練馬区大泉学園町9-1-1	普通科	八代晃 03-3924-3185	前田朋乃 03-3924-9411
	36	都	南高等学校 〒143-0027 大田区中馬込3-11-10	普通科	飯島篤 03-3774-0373	田村祥子 03-3774-0325
神奈川	37	県	綾瀬西高等学校 〒252-1123 綾瀬市早川1485-1	普通科	坂寄孝雄 0467-77-5121	勝見優 0467-76-8199
	38	県	高浜高等学校 〒254-0805 平塚市高浜台8-1	普通科	佐々木重昭 0463-21-0417	渡邊努 0463-23-7138
	39	市	川崎高等学校 〒210-0806 川崎市川崎区中島3-3-1	福祉科	国吉卓 044-244-4981	岡多枝子 044-211-8295
	40	県	津久井高等学校 〒220-0209 津久井郡津久井町三ヶ木272-1	普通科	立山洋典 0427-84-1053	吉田和正 0427-84-7960

(Noの 印は本大会参加校)

都道府 県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
新潟	41	県	八海高等学校 〒949-6627 南魚沼郡六日町大字余川1276	福祉科	吉原 喜久雄 0257-72-3281	小野塚 美代子 0257-72-8878
	42	県	高田北城高等学校 〒943-0824 上越市北城町2-8-1	生活文化科	安田 邦英 0255-22-1164	渡部 香代子 0255-26-1579
	43	県	新井高等学校 〒944-0031 新井市田町1丁目10-1	総合学科	児玉 伸 0255-72-4151	0255-72-7529
	44	県	西川竹園高等学校 〒959-0421 西蒲原郡西川町大字鱸2-1	生活文化科	丸山 敬 0256-88-3131	沢栗 正子 0256-88-2172
富山	45	県	八尾高等学校 〒939-2376 婦負郡八尾町福島213	生活福祉科	林 吉之 0764-54-2205	桐井 優子 0764-54-2205
	46	県	砺波女子高等学校 〒932-0114 小矢部市清水95-1	生活福祉科	浜本 純雄 0766-61-2040	加賀谷 恵子 0766-61-8255
	47	県	有磯高等学校 〒935-0025 氷見市鞍川1056	生活福祉科	砂子阪 政己 0766-74-0229	鈴木 八重子 0766-74-0228
	48	県	新川女子高等学校 〒937-0011 魚津市木下新144	普通科	米原 寛 0765-22-3535	島崎 俊哉 0765-22-2119
石川	49	県	金沢伏見高等学校 〒921-8044 金沢市米泉町5-85	普通科	樋田 忠雄 076-242-6175	平野 優 076-242-7458
	50	県	田鶴浜高等学校 〒929-2122 鹿島郡田鶴浜町上野ヶ丘59	健康福祉科	山田 邦男 0767-68-3116	永井 和美 0767-68-2351
	51	県	柳田農業高等学校 〒928-0331 鳳至郡柳田村字柳田イ部3	生活科学科	山本 善昭 0768-76-1211	高宮 恵子 0768-76-0079
福井	52	県	大野東高等学校 〒912-0016 大野市友江9-10	福祉教養科	田中 浩二 0779-66-4610	中村 由美子 0779-66-5577
	53	私	啓蒙新高等学校 〒910-0017 福井市文京4丁目15-1	福祉科	荻原 芳昭 0776-23-3489	定兼 紘美 0776-21-2922
長野	54	県	上田千曲高等学校 〒386-0034 上田市中之条626	生活福祉科	香山 昇久 0268-22-7070	高橋 加代子 0268-23-5370
静岡	55	県	吉田高等学校 〒421-0303 榛原郡吉田町片岡2130	福祉科	中村 羊一郎 0548-32-1241	池上 香苗 0548-32-7831
	56	私	三島高等学校 〒411-0944 駿東郡長泉町竹原354	福祉科	小崎 祥道 0559-75-0035	松本 寿子 0559-76-0735
	57	私	静岡女子高等学校 〒422-8076 静岡市八幡3丁目6-1	福祉科	杉山 正美 054-285-2274	佐藤 完 054-282-2757
	58	私	沼津中央高等学校 〒410-0033 沼津市杉崎町11-20	普通科	勝又 義太郎 0559-21-0346	村松 正安 0559-24-7158
愛知	59	県	高浜高等学校 〒444-1311 高浜市本郷町1-6-1	福祉科	丹羽 幹太 0566-52-2100	鋤柄 由美子 0566-52-7059
	60	県	宝陵高等学校 〒441-1205 宝飯郡一宮町大字大木字鑓水445	生活福祉科	河合 誠二 0533-93-2041	鈴木 美知子 0533-93-2826

(Noの 印は本大会参加校)

都道府 県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
愛知	61	県	古知野高等学校 〒483-8331 江南市古知野町高瀬1	福祉科	小田 博一 0587-56-2508	嶋田 麻知代 0587-53-0989
岐阜	62	県	大垣桜高等学校 〒503-0103 安八郡墨俣町上宿465-1	福祉科	酒井 玲子 0584-62-6131	渡部 洋子 0584-62-5608
	63	県	岐阜総合学園高等学校 〒500-8289 岐阜市須賀2-7-25	総合学科	荒井 強平 058-271-5548	佐久間 朋子 058-274-2350
三重	64	県	明野高等学校 〒519-0501 度会郡小俣町明野1481	福祉科	中川 昌保 0596-37-4125	中村 洋子 0596-37-4127
	65	県	上野商業高等学校 〒518-0833 上野市緑ヶ丘東町920	福祉科	須藤 淳三 0595-21-1900	福永 敏子 0595-21-1923
	66	県	みえ夢学園高等学校 〒514-0803 津市柳山津輿1239	総合学科	星野 茂 059-226-6257	059-226-6218
滋賀	67	県	長浜高等学校 〒526-0033 長浜市平方町三反田270	福祉科	山崎 忠士 0749-62-0896	村元 研二 0749-65-1340
	68	県	八日市女子高等学校 <del>滋賀学園</del> 普通科 〒527-0003 八日市市建部北町520-1	普通科	谷口 昭信 0748-23-0858	岩崎 由美子 0748-23-6145
京都	69	私	聖家族女子高等学校 〒622-0002 船井郡園部町美園町1-78	普通科	石田 一彦 0771-62-0163	前川 尚慶 0771-63-0989
	70	私	福知山淑徳高等学校 〒620-0936 福知山市正明寺36-10	総合学科	山口 亨 0773-22-3763	下川 直輝 0773-23-5519
大阪	71	府	松原高等学校 〒580-0041 松原市三宅東3-4-1	総合学科	野村 利夫 0723-34-8008	加納 明彦 0723-34-8142
	72	府	柴島高等学校 〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106	総合学科	清水 秀司 06-323-8351	井上 慎一 06-323-8237
兵庫	73	県	日高高等学校 〒669-5302 城崎郡日高町岩中1	福祉科	佐伯 博文 0796-42-1133	山崎 由美 0796-42-1648
	74	県	新宮高等学校 〒679-4313 揖保郡新宮町新宮27-1	福祉科	村上 紘揚 0791-75-0018	長森 順子 0791-75-2549
	75	県	香寺高等学校 〒679-2163 神崎郡香寺町土師547	総合学科	杉本 健三 0792-32-0048	天野 昭一 0792-65-2070
	76	私	塩原女子高等学校 〒651-0058 神戸市中央区葺合町寺ヶ谷1	家庭科	岸本 進 078-242-4811	恋野 英夫 078-242-5723
奈良	77	県	榛原高等学校 〒633-0241 宇陀郡榛原町下井足210	福祉科	吉川 説夫 0745-82-0525	中西 美砂子 0745-82-7606
鳥取	78	県	八頭高等学校 〒680-0451 八頭郡家町大字久能寺725	生活デザイン科	武田 勝文 0858-72-0022	湯口 啓子 0858-72-0113
	79	県	岩美高等学校 〒681-0003 岩美郡岩美町浦富708-2	普通科	三谷 孝章 0857-72-0474	山名 法道 0857-72-3445
島根	80	県	遡摩高等学校 〒699-2301 遡摩郡仁摩町仁万907	総合学科	渡津 俊行 08548-8-2220	08548-8-4417



(Noの 印は本大会参加校)

都道府 県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
島根	81	県	益田産業高等学校 〒698-0041 益田市高津町イ2518-1	総合学科	村尾 巨彦 0856-22-0642	青木 博枝 0856-22-0684
	82	私	明誠高等学校 〒698-0006 益田市三宅町7-37	福祉科	岸 政信 0856-22-1052	石川 佳照 0856-22-8729
	83	県	松江農林高等学校 〒690-8507 松江市乃木福富町51	総合学科	平木 栄 0852-21-6772	土谷 武盛 0852-21-6796
	84	私	松徳女学院高等学校 〒690-0015 松江市上乃木1-14-51	普通科	草野 武彦 0852-21-5578	山本 寿子 0852-21-1350
岡山	85	県	倉敷中央高等学校 〒710-0845 倉敷市西富井1384	福祉科	三吉 肇 086-465-2559	丹原 百合子 086-466-2832
	86	県	吉備北陵高等学校 〒716-1112 上房郡賀陽町湯山1028	普通科	向原 康夫 0866-54-1033	兒子 文子 0866-54-0933
	87	私	美作高等学校 〒708-0004 津山市山北500	普通科	上田 敏博 0868-22-4838	明楽 俊應 0868-24-6171
	88	私	ベル学園高等学校 〒700-0054 岡山市下伊福西町7-38	社会福祉科	丸山 哲朗 086-252-2101	保住 芳美 086-253-0582
	89	県	福渡高等学校 〒709-3111 御津郡建部町福渡425	普通科	東城 達彦 0867-22-0741	未 定 0867-22-2380
	90	県	日本原高等学校 〒708-1204 勝田郡勝北町日本原577	家政科	泉 和男 0868-36-5165	則本 智子 0868-36-5336
高知	91	県	城山高等学校 〒781-5310 香美郡赤岡町1612	普通科	野島 國弘 08875-5-2126	曾我部 公彦 08875-5-0170
	92	県	室戸高等学校 〒781-7102 室戸市室津221	総合学科	時久 公郎 08872-2-1155	辻 由理 08872-2-3891
広島	93	県	黒瀬高等学校 〒724-0622 賀茂郡黒瀬町乃美尾1	福祉科	吉田 照男 0823-82-2525	大石 恩 0823-82-2527
	94	県	世羅高等学校 〒722-1112 世羅郡世羅町本郷870	生活福祉科	石川 敏浩 08472-2-1118	羽田 善子 08472-2-5244
	95	県	吉田高等学校 〒731-0501 高田郡吉田町吉田719-3	生活福祉科	田中 辰吉 0826-42-0031	垣内 里恵子 0826-42-0207
山口	96	県	久賀高等学校 〒742-2301 大島郡久賀町4851-2	福祉科	舛本 昭夫 08207-2-0024	山本 泰史 08207-2-0096
	97	私	中村女子高等学校 〒753-8530 山口市駅通り1-1-1	介護福祉科	五十部 益一 0839-22-0418	河本 義満 0839-22-8063
	98	私	聖光高等学校 〒743-0011 光市光井9-22-1	普通科	東條 博典 0833-72-1188	河野 江利子 0833-72-1308
香川	99	県	三木高等学校 〒761-0702 木田郡三木町平木750	総合学科	銭谷 禎人 087-891-1100	小川 佳代 087-891-1551
	100	県	飯山高等学校 〒762-0083 綾歌郡飯山町下法軍寺664-1	総合学科	三島 賢三 0877-98-2525	0877-98-2576

(Noの 印は本大会参加校)

都道府 県名	No	公私	学校名 〒番号 住所	学科名	校長名 ☎番号	学科主任 F A X
愛媛	101	県	新居浜南高等学校 〒792-0836 新居浜市篠場町1-32	総合学科	森 謙司 0897-43-6191	石川 篤宏 0897-44-7447
	102	県	北条高等学校 〒799-2493 北条市辻600-1	総合学科	渡辺 福德 089-993-0333	芝田 敬子 089-993-0429
	103	県	川之石高等学校 〒796-1020 西宇和郡保内町川之石1-112	総合学科	亀岡 佳章 0894-36-0550	酒井 賀陽子 0894-36-1994
	104	私	松山城南高等学校 〒790-8550 松山市北久米町815	福祉科	西村 義臣 089-976-4343	中田 千栄子 089-976-4348
福岡	105	県	三井高等学校 〒838-0122 小郡市松崎650	普通科	角 敏秀 0942-72-2161	中村 喬 0942-72-9064
	106	県	久留米筑水高等学校 〒839-0817 久留米市山川町1493	社会福祉科	山鹿 肇雄 0942-43-0461	佐々木 哲雄 0942-45-0143
	107	私	杉森女子高等学校 〒832-0046 柳川市奥州町3	福祉科	中村 義行 0944-72-5216	森 茂樹 0944-72-5218
	108	私	慶成高等学校 〒803-0854 北九州市小倉北区皿山町15-1	人間科学科	鈴木 孝顕 093-561-1331	中村 浄志 093-561-4844
	109	県	黒木高等学校 〒834-1216 八女郡黒木町大字桑原10-2	普通科	寺崎 祥尊 0943-42-1150	中園 和昭 0943-42-3791
	110	私	直方女子高等学校 〒822-0025 直方市日吉町10-12	介護福祉科	川原 克彦 09492-2-0533	中園 浩 09492-2-0535
佐賀	111	県	神埼清明高等学校 〒842-0012 神埼郡神埼町横武2	総合学科	前田 勝行 0952-52-3191	東島 貴美子 0952-51-1017
長崎	112	私	玉木女子高等学校 〒850-0822 長崎市愛宕1丁目21-6	福祉科	岩橋 弘 095-826-6321	澤田 忠和 095-828-6837
熊本	113	県	八代農業高等学校 〒869-4201 八代郡鏡町大字鏡村129	福祉教養科	森 繁巳 0965-52-0076	上野 千鶴子 0965-52-5048
	114	県	多良木高等学校 〒868-0501 球磨郡多良木町多良木1212	普通科	小山 忠 0966-42-2102	瀬音 博美 0966-42-1022
	115	私	菊池女子高等学校 〒861-1331 菊池市隈府1083	社会福祉科	荒木 修 0968-25-3032	中村 巴 0968-25-3180
	116	私	城北高等学校 〒861-0542 山鹿市志々岐字大野原798	社会福祉科	松浦 シズエ 0968-44-8111	馬場 誠也 0968-44-0747
	117	私	熊本フェリス女学院高等学校 〒861-4106 熊本市南高江7丁目3-1	医療福祉科	米光 聖 096-357-7151	吉村 昭一 096-358-3044
	118	県	安蘇清峰高等学校 〒869-2612 阿蘇郡一の宮町宮地4131	社会福祉科	増永 孝 0967-22-0045	中山 美宇 0967-22-5161
大分	119	県	山香農業高等学校 〒879-1306 速見郡山香町広瀬4706	生活科学科	廣瀬 晋三 0977-75-1166	藤内 節子 0977-75-1165
	120	県	野津高等学校 〒875-0201 大野郡野津町大字野津市537-1	福祉科	臼井 秀朗 0974-32-2031	藤田 泰子 0974-32-2119

## あ と が き (諸 連 絡)

(Noの 印は本大会参加校)

都道府 県 名	No	公 私	学 校 名 〒番号 住 所	学 科 名	校 長 名 ☎ 番 号	学 科 主 任 F A X
大 分	121	私	楊志館高等学校 〒870-0838 大分市桜ヶ丘7-8	普 通 科	山 本 忠 夫 0975-43-6711	佐々木 修 0975-43-4516
	122	県	耶馬溪高等学校 〒871-0404 下毛郡耶馬溪町大字戸原1663-1	普 通 科	酒 井 広 道 0979-54-2011	小 野 潤 子 0979-54-2519
	123	県	玖珠農業高等学校 〒879-4403 玖珠郡玖珠町大字帆足160	生 活 科 学 科	兼 田 公 敬 09737-2-1148	用 松 百合子 09737-2-1149
宮 崎	124	県	妻 高 等 学 校 〒881-0003 西都市大字右松2330	福 祉 生 活 科	荒 川 功 0983-43-0005	濱 砂 美穂子 0983-43-0005
	125	県	日南農林高等学校 〒889-3202 南那珂郡南郷町大字中村甲3543	生 活 福 祉 科	小 西 国 雄 0987-64-1177	井戸川 浜子 0987-64-1947
	126	県	門川農業高等学校 〒889-0611 東臼杵郡門川町大字門川尾末2680	福 祉 生 活 科	岩 村 隆 博 0982-63-1336	三 宅 靖 子 0982-63-5194
	127	県	高原高等学校 〒889-4411 西諸県郡高原町大字広原4981-2	福 祉 生 活 科	前 田 勝 0984-42-1010	有 嶋 正 恵 0984-42-1270
	128	私	都城高等学校 〒885-8502 都城市簗原町7916	介 護 福 祉 科	柳 田 正 照 0986-23-2477	相 葉 春 信 0986-26-5220
	鹿 児 島	129	県	加世田常潤高等学校 〒897-0002 加世田市武田14863	生 活 福 祉 科	坂 本 道 應 0993-53-3600
130		私	加治木女子高等学校 〒899-5241 始良郡加治木町木田5348	医 療 福 祉 科	桐 原 祥 二 0995-63-3001	島 村 健 二 0995-63-3002
131		私	鳳凰高等学校 〒897-1121 加世田市唐仁原1202	医 療 福 祉 科	西 美 継 0993-53-3633	釜 口 休 紀 0993-52-7974
132		私	出水中央高等学校 〒899-0213 出城市西出水町448	医 療 福 祉 科	表 迫 勝 之 0996-62-0500	川 畑 博 美 0996-62-6677
133		私	神村学園高等部 〒896-8686 串木野市下名4460	医 療 福 祉 科	神 村 裕 之 0996-32-3232	川 瀬 勉 0996-32-2990
沖 縄	134	県	陽明高等学校 〒901-2113 浦添市字大平488	総 合 学 科	名 嘉 山 興 武 098-879-3062	比 嘉 加 代 098-879-9520

1 宮崎大会報告書(通巻4号)をお送り致します。

2 主管校の宮崎県立門川農業高等学校の皆様をはじめとして、宮崎ブロックの各校には大変お世話になりました。記録についてもご協力をいただきました。夏休み中や新学期のお忙しい中をまとめていただき、この報告書が出来ました。厚く御礼申し上げます。

3 本大会開催中に教科「福祉」の創設が理産審で答申されたことは、大会を進めて行く上で大きな希望の光となりました。今後、更に新たな課題が現われてくると思いますが、本会の意義を確かめつつ、解決の道を共に探したいものです。

4 懇親会でのアトラクションの力強い太鼓の響きが今も鮮やかに耳に残っています。真に打ちたたき、ひびきひらく本会の福祉教育のテーマに合致し、演出のすばらしさを感じ、主管校の岩村校長先生に感謝申し上げます。

5 宮崎県立看護大学長、薄井坦子先生のご講演は「人間が何かをするということは、人間の心が動かないといけない。」「看護は頭の中に理論があれば支えることができる。」等、静かなお話しの中でゆっくりと心の中に浸りこみました。そして「目の光は人間性を示すもの」という内容が印象強く残っています。福祉科教育に関わる者として自らも「輝き」を大切にしていこうと思いました。

6 10年度の新規加盟校が宮崎大会時で24校となり、その後1校加わり、本会の加盟校は134校となりました。組織力を高めて福祉科教育の充実と発展をめざして「教育力」を高めて行きましょう。

7 本大会の参加校は81校、159名(校長部会46

名、学科主任会113名)です。

学科設置校、コース等設置校の2つの分科会を持ちました。各分科会では熱心な意見交換もあり、現場で抱える諸問題の一助になったことと思います。

8 平成11年度は本会の理事役員等の改選の年です。各地区理事会における役員選出をお願い致します。

9 本大会の会場は主管校を中心とし、宮崎県内の各校が実生から育て上げた花々が各々工夫をこらし飾りつけられた手づくりの見事なものでした。本大会日に丁度咲き揃うよう計画されて育てられたとのこと、真に「福祉の花」として心を合わせて咲いたのでした。

10 年1回の全国大会ですが、今年も本大会を機会にブロックでのつながりが出来、連帯感が育った方々も多くあったことと思います。

11 全国福祉科高等学校基礎調査を今後も実施して行く予定でありますのでご協力ください。

本会の充実と発展を祈念申し上げます。  
(事務局)

### 岡山大会予告

と き 平成11年10月21日(木)・22日(金)  
と ころ ベル学園高等学校(岡山県)(主管校)

### 理事会及び学科主任代表者会議予告

と き 平成11年5月27日(木)  
10時より 学科主任代表者会議  
午後2時より 理事会  
と ころ 家庭部会事務局(東京飯田橋駅下車)

### 事務局

埼玉県立不動岡誠和高等学校  
〒348-0024 羽生市大字神戸706  
TEL 0485-61-6651  
FAX 0485-60-1051

